

# 学校法人香川栄養学園 平成 24 年度事業報告書

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

## 目次

I. 学校法人の概要	3
1. 建学の理念・精神	3
2. 沿革	3
3. 設置学校等	5
4. 役員及び職員に関する情報	5
(1) 役員一覧	5
(2) 職員数	5
5. 理事会・評議員会 開催状況	6
(1) 理事会	6
(2) 評議員会	7
(3) 常任理事会	7
II. 事業の概要	9
1. 施設・設備事業の概要	9
(1) 駒込キャンパスの施設・設備整備関係	9
(2) 坂戸キャンパスの施設・設備整備関係	9
(3) 大震災に伴う修繕工事等	9
2. 教育研究の概要	11
(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報	11
(2) 教員組織	11
(3) 学生に関する情報	12
(4) 教育課程に関する情報	15
(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	17
(6) 学習環境に関する情報	31
(7) 学生納付金に関する情報	35
(8) 学生支援と奨学金に関する情報	35
(9) 主な教学関係事業の概況	41
3. 当該年度のその他の事業の概要	45
4. 特長ある取り組みの概要	46
(1) 社会貢献・連携活動の概要	46
(2) 生涯学習	47
(3) 国際交流の概要	48
III. 財務の概要	50
IV. 財務比率	54

## 1. 学校法人の概要

### 1. 建学の理念・精神

学校法人香川栄養学園の建学の精神は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」ことです。

学園創立者の香川昇三・綾は、当時蔓延していた脚気が胚芽米で容易に治療・予防できることに感動し、真の医者には病人を診るよりも病人を出さないことに務めるべきだと考え、1933（昭和8）年に自宅で『家庭食養研究会』を開いて栄養学の普及活動を始めました。

### 2. 沿革

昭和の初め、東京大学の医学部で脚気の研究をしていた医師の香川昇三と香川綾は、薬ではどうしても治らない脚気の患者に胚芽米を与えることにより脚気が劇的に治療することから、人間の健康に対する食の重要性を強く認識し「医師のやるべき仕事は、病人を治す前に病人を出さないことであり、このためには正しい食生活が最も重要なことである。」という確固たる信念に基づいて、1933年現在の文京区本駒込の自宅に家庭食養研究会を設立しました。

家庭食養研究会は塾のようなものであり、大学の先生の妻女、近所の主婦など家庭の食事を担当する人々を対象とし、最新の栄養学の知識やその実践方法についての講義や実習を行っていました。講師には、香川昇三・綾夫妻の他にも東京大学の先生方が何人も参加され、また栄養学の実践には欠くことのできない調理技術には、一流のホテルのシェフや高級料亭の板前が本格的な指導を行っていました。そしてこの家庭食養研究会の講義録が1935年月刊誌「栄養と料理」となり、現在なお60年以上の伝統をもって女子栄養大学出版部より継続発行されております。

家庭食養研究会の究極の目的は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」であり、理想は食事が原因となるすべての病気を社会から追放し、同時にすべての人を食事によってより健康にすることです。家庭食養研究会はこの理想の具現化のために時代とともに発展し、現在では専門学校、短期大学部、大学、大学院を擁する「食と健康」を専門とする世界でもまれな学園となりました。その建学の精神と理想は今日においても家庭食養研究会設立当時とまったく変わっていないものです。

学校法人 香川栄養学園 沿革

昭和 8 年	「家庭食養研究会」発足
昭和 12 年	「家庭食養研究会」を「栄養と料理学園」に名称変更
昭和 15 年	「女子栄養学園」に改称
昭和 23 年	「財団法人香川栄養学園」を設立
昭和 25 年	「女子栄養短期大学」を設置
昭和 26 年	「学校法人香川栄養学園」に改組
昭和 34 年	「香川調理師学校」を設置
昭和 36 年	「女子栄養大学」家政学部食物栄養学科を設置 「女子栄養学園」と「香川調理師学校」を統合して「香川栄養学校」栄養士科・調理師科を設置
昭和 40 年	「女子栄養大学」家政学部を栄養学部に改組
昭和 42 年	「女子栄養大学」に栄養学部二部栄養学科を設置
昭和 44 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程設置
昭和 51 年	「香川栄養学校」を「香川栄養専門学校」に改組
昭和 55 年	「女子栄養大学」栄養学部に保健栄養学科を設置
平成 元年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻博士後期課程設置
平成 3 年	「香川栄養専門学校」の調理高等課程調理師科を調理専門課程調理師科と調理高等課程調理師科に分離 製菓科は調理専門課程製菓科となる
平成 5 年	「女子栄養大学」栄養学部に文化栄養学科を設置
平成 7 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻修士課程を設置
平成 8 年	「香川栄養専門学校」調理高等課程調理師科を廃止
平成 9 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻に博士後期課程を設置
平成 12 年	「女子栄養短期大学」を「女子栄養大学短期大学部」に名称変更
平成 15 年	「女子栄養大学」栄養学部栄養学科実践栄養学専攻を実践栄養学科に栄養学科栄養科学専攻並びに保健栄養学科を統合し保健栄養学科に改組 同栄養学部二部栄養学科を保健栄養学科に名称変更
平成 18 年	「女子栄養大学」栄養学部文化栄養学科を食文化栄養学科に名称変更
平成 21 年	「香川栄養専門学校」調理専門課程調理マイスター科（2年制）設置
平成 22 年	「香川栄養専門学校」栄養専門課程栄養士科を廃止 「香川栄養専門学校」を「香川調理製菓専門学校」に名称変更

### 3. 設置学校等

設置学校		学長・校長名	所在地
女子栄養大学	大学院	香川 芳子	坂戸キャンパス 埼玉県坂戸市千代田三丁目9番21号
	栄養学部 栄養学部 二部		
女子栄養大学短期大学部		香川 芳子	駒込キャンパス 東京都豊島区駒込三丁目24番3号
香川調理製菓専門学校		香川 明夫	

### 4. 役員及び職員に関する情報

#### (1) 役員一覧

(平成24年5月1日現在)

理事長	香川達雄	(学校法人香川栄養学園 事業理事)
副理事長	香川芳子	(女子栄養大学学長、同短期大学部学長)
常務理事	山根正彦	(学校法人香川栄養学園 国際交流部長)
理事	五明紀春	(女子栄養大学副学長、同短期大学部副学長)
理事	西本憲弘	(女子栄養大学短期大学部 副学長)
理事	梅岡總冶	(梅岡本店 社長)
理事	宮坂忠夫	(女子栄養大学 名誉教授)
理事	小林辰三郎	(株式会社トーハン 取締役)
理事	濱口敏行	(ヒゲタ醤油株式会社 代表取締役社長)
理事	岸朝子	(ak オフィス)
理事	藤村和男	(公益財団法人教科書研究センター 参与)
理事	山野井昭雄	(味の素株式会社 社友)
理事	染谷忠彦	(学校法人香川栄養学園 広報部長)
理事	佐久間慶子	(女子栄養大学 名誉教授)
理事	井形昭弘	(名古屋学芸大学 学長)
監事	志甫圭一	(横浜簡易裁判所司法委員)
監事	工藤誠司	(工藤特許事務所長)

#### (2) 職員数

女子栄養大学

平成24年5月1日現在 (単位:人)

区分	男	女	計
本務者	22	59	81
兼務者	13	10	23
合計	35	69	104

女子栄養大学短期大学部

平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位：人)

区 分	男	女	計
本 務 者	6	18	24
兼 務 者	13	10	23
合 計	19	28	47

香川調理製菓専門学校

平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位：人)

区 分	男	女	計
本 務 者 の み	5	12	17

5. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会 開催回数 6 回 審議事項以下の通り

平成 24 年 5 月 29 日 (火) 出席 13 人 (うち、委任状 出席 1 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 23 年度事業報告の件 第 2 号議案 平成 23 年度決算の件 第 3 号議案 駒込キャンパス隣接土地購入の件 第 4 号議案 評議員人事の件 第 5 号議案 理事人事の件 第 6 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 24 年 5 月 29 日 (火) 出席 11 人 (うち、委任状 出席 0 人) 監事 2 人	第 1 号議案 役付理事人事の件 第 2 号議案 その他の件
平成 24 年 8 月 21 日 (火) 出席 15 人 (うち、委任状 出席 4 人) 監事 2 人	第 1 号議案 役付理事人事の件 第 2 号議案 その他の件
平成 24 年 12 月 4 日 (火) 出席 14 人 (うち、委任状 出席 2 人) 監事 1 人	第 1 号議案 女子栄養大学学生クラブハウス (仮称) 新築の件 第 2 号議案 その他の件
平成 25 年 2 月 26 日 (火) 出席 14 人 (うち、委任状 出席 2 人) 監事 2 人	第 1 号議案 専門学校普通教室等改築 (増設) の件 第 2 号議案 駒込キャンパス隣接国有地購入の件 第 3 号議案 女子栄養大学短期大学部図書館・専門学校図書就職資料 室の改修の件 第 4 号議案 その他の件
平成 25 年 3 月 26 日 (火) 出席 15 人 (うち、委任状 出席 1 人) 監事 2 人	第 1 号議案 第 2 号基本金組入計画の件 第 2 号議案 平成 25 年度事業計画の件 第 3 号議案 平成 25 年度予算の件 第 4 号議案 平成 26 年度新入生学納金等の件 第 5 号議案 香川調理製菓専門学校調理専門課程調理師科入学定員 増の件 第 6 号議案 女子栄養大学長選任の件 第 7 号議案 評議員人事の件 第 8 号議案 その他の件 (報告事項)

**(2) 評議員会 開催回数 4回 審議事項以下の通り**

平成24年5月29日(火) 出席 28人(うち、委任状出席 5人) 監事 2人	第1号議案 平成23年度事業報告の件 第2号議案 平成23年度決算の件 第3号議案 駒込キャンパス隣接土地購入の件 第4号議案 理事人事の件 第5号議案 監事人事の件 第6号議案 その他の件(報告事項)
平成24年12月4日(火) 出席 29人(うち、委任状出席 2人) 監事 1人	第1号議案 女子栄養大学学生クラブハウス(仮称)新築の件 第2号議案 その他の件
平成25年2月26日(火) 出席 30人(うち、委任状出席 1人) 監事 2人	第1号議案 専門学校普通教室等改築(増設)の件 第2号議案 駒込キャンパス隣接国有地購入の件 第3号議案 女子栄養大学短期大学部図書館・専門学校図書就職資料室の改修の件 第4号議案 その他の件
平成25年3月26日(火) 出席 30人(うち、委任状出席 2人) 監事 2人	第1号議案 第2号基本金組入計画の件 第2号議案 平成25年度事業計画の件 第3号議案 平成25年度予算の件 第4号議案 平成26年度新入生学納金等の件 第5号議案 香川調理製菓専門学校調理専門課程調理師科入学定員増の件 第6号議案 理事人事の件 第7号議案 その他の件(報告事項)

**(3) 常任理事会 開催回数 11回 審議事項以下の通り**

平成24年4月24日(火) 出席 11人(うち、監事 2人)	第1号議案 香川栄養学園名誉理事称号授与の件 第2号議案 退任役員慰労金等の件 第3号議案 女子栄養大学名誉教授称号授与の件 第4号議案 調達規程改定の件 第5号議案 理事・評議員退任の件 第6号議案 その他の件(報告事項)
平成24年5月22日(火) 出席 11人(うち、監事 2人)	第1号議案 理事会・評議員会(平成24年5月29日開催)付議事項の件 第2号議案 平成24年度学内理事等期末手当及び学外役員報酬の件 第3号議案 事務組織改編の件 第4号議案 駒込隣接土地(不動産)購入の件 第5号議案 その他の件(報告事項)
平成24年6月26日(火) 出席 10人(うち、監事 2人)	第1号議案 駒込キャンパス隣接土地(不動産)購入の件 第2号議案 専門学校実習室等施設改修工事の件 第3号議案 専門学校学則変更の件 第4号議案 「学校法人香川栄養学園 教員海外研修規程」の件 第5号議案 「学校法人香川栄養学園 海外研修期間の待遇等に関する規程」の件 第6号議案 「女子栄養大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程」の件 第7号議案 その他の件(報告事項)

平成 24 年 7 月 24 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	駒込キャンパス隣接土地 (不動産) 購入の件
第 2 号議案	改革推進会議からの答申の件
第 3 号議案	短期大学部調理系助教 (任期を限った) 採用の件
第 4 号議案	終身雇用実験実習助手の事務職転換制度導入の件
第 5 号議案	常任理事会構成員の件
第 6 号議案	その他の件 (報告事項)
平成 24 年 10 月 2 日 (火) 出席 11 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	平成 24 年度入学試験東日本大震災に伴う特別支援措置の件
第 2 号議案	「保健センター規程」改定の件
第 3 号議案	「女子栄養大学栄養クリニックに関する規程」改定の件
第 4 号議案	「女子栄養大学短期大学部における調理学分野に限った助手の 選考に関する件
第 5 号議案	「臨時職員の時間給」改定の件
第 6 号議案	私費外国人留学生「奨学金制度」に関する規程について
第 7 号議案	その他の件 (報告事項)
平成 24 年 10 月 30 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	学園改革案件に関する答申等の件
第 2 号議案	特別嘱託給与に関する件
第 3 号議案	教職員子女推薦入試制度新設の件
第 4 号議案	その他の件 (報告事項)
平成 24 年 11 月 27 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 1 人)	
第 1 号議案	評議員会・理事会 (平成 24 年 12 月 4 日 (火) 開催) 付議事項の件
第 2 号議案	平成 24 年度役員報酬・期末手当の件
第 3 号議案	坂戸校舎 6 号館外壁全面改修工事の件
第 4 号議案	その他の件
平成 24 年 12 月 18 日 (火) 出席 10 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	女子栄養大学短期大学部副学長交代の件
第 2 号議案	その他の件 (報告事項)
平成 25 年 1 月 29 日 (火) 出席 11 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	平成 25 年度在学生 (新入生を除く) 学納金の件
第 2 号議案	創立 80 周年記念事業 (平成 25 年度実施イベント) の件
第 3 号議案	その他の件
平成 25 年 2 月 19 日 (火) 出席 11 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	臨時理事会・評議員会付議事項の件
第 2 号議案	駒込キャンパス隣接国有地購入の件
第 3 号議案	女子栄養大学学長候補者選考 (再選) の件
第 4 号議案	女子栄養大学短期大学部副学長退職金等の件
第 5 号議案	専門学校パース短期留学に係わる融資制度規則の件
第 6 号議案	「学校法人香川栄養学園 研究者行動規範」の件
第 7 号議案	「香川綾記念教育交流センター建設に関する覚書」一部改定の件
第 8 号議案	その他の件 (報告事項)
平成 25 年 3 月 19 日 (火) 出席 9 人 (うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	理事会・評議員会 (平成 25 年 3 月 26 日開催) 付議事項の件
第 2 号議案	重要な人事の件
第 3 号議案	バンクウエスト銀行との取引の件
第 4 号議案	その他の件 (報告事項)



## II. 事業の概要

### 1. 施設・設備事業の概要

#### (1) 駒込キャンパスの施設・設備整備関係

- 専門学校普通教室並びに調理実習室、調理準備室新設工事实施に伴い専門学校教職員事務室、国際交流部事務室、出版部営業課事務室の移設工事を行いました。
- 4号館ブルーラウンジ、生涯学習センター全館、並びに代理部各々の使用している GHP 空調機の耐用年数超過に伴い GHP 室外機 5 台、室内機 37 台を省エネタイプに更新致しました。
- 総務部課員増、理事長室新設等により事務室拡張工事に伴い理事長室、学長室、常務理事室、役員会議室移設工事、第 1 会議室改修工事を行いました。
- 専門学校製菓科用普通教室増設の為 3404 教室、3405 教室の 2 教室を 3 分割とする改修工事を行い新たに 3406 教室を新設致しました。また、男子生徒増加に伴い専門学校男子ロッカー一室の増幅工事を行いました。
- 2号館 1 階調理第 1 実習室内のブラウン管モニター 6 台を省エネタイプの液晶モニターに更新並びに調理第 2 実習室内の AV・音響システムの経年劣化に伴う不具合から同じく更新工事を行いました。

#### (2) 坂戸キャンパスの施設・設備整備関係

- 2号館調理実習室、準備室内ブラウン管モニター 19 台の経年劣化から省エネタイプの液晶モニターに更新致しました。
- 11号館クラブ室（音楽棟）建設後 9 年経過したことから屋上、外壁防水工事を行いました。
- 2・4・6号館内の普通教室 10 教室用のマイクシステム設置経年により故障時対応ができないことから更新致しました。
- 6号館の耐久性強化の為に外壁、窓枠等全面改修工事を行いました。
- 1号館免疫検査学研究室、1402 教室用 GHP 空調機の耐用年数超過のため GHP 室外機 1 台（3 台→1 台）、室内機 4 台（6 台→4 台）を省エネタイプに更新致しました。
- 若葉寮全戸に亘る集中検針盤、水道メーター、電気メーターの使用年限超過の為更新致しました。

#### (3) 駒込キャンパス近隣不動産関係

- 近隣不動産購入計画により平成 24 年度においても 4 号館東側（本郷通り側）隣接不動産土地 3 筆合計 584.91 m<sup>2</sup>（177.24 坪）並びに同地地上建物（借地権）2 棟を購入致しました。その内 1 棟の一部を店舗として賃貸しておりますが平成 25 年 12 月末までに退去する予定になっております。また、同地地上にもう 1 棟の建物（借地権）があり現在購入交渉中であります。本件土地購入により学園所有地は本郷通りに接面したことになり土地有効度は一段と向上致しました。

費用、改修時期等は以下の通りです。

(単位：千円)

事 項	事 業 内 容	事 業 費	実 施 時 期
(1) 駒込 キャンパス 改修工事等	専門学校普通教室、調理実習室、準備室新設工事等々	97,548	平成24年8月
	ブルーラウンジ、生涯学習センター、代理部各々GHP室内外空調機更新	48,300	平成24年5月
	総務部事務室拡幅、理事長室、学長室等々移設工事等	17,238	平成24年12月
	専門学校製菓科用普通教室増設（2教室→3教室）	7,777	平成25年3月
	調理第1実習室モニター6台、調理第2実習室AV・音響システム更新	7,000	平成25年3月
	駒込校舎 計	177,863	
(2) 坂戸 キャンパス 改修工事等	2号館調理実習室、準備室モニター19台更新	6,300	平成24年4月
	11号館クラブ室(音楽棟)屋上等防水工事	5,880	平成24年8月
	2・4・6号館普通教室10教室マイクシステム更新	5,000	平成24年11月
	6号館全館外壁、窓枠等全面改修工事	58,800	平成24年12月
	1号館免疫検査学研究室、1402教室GHP室内外空調機更新	5,775	平成25年1月
	若葉寮全戸に亘る集中検針盤、水道・電力メーター更新	9,450	平成24年1月
	坂戸校舎 計	91,205	
	駒込・坂戸校舎 合計	269,068	

## 2. 教育研究の概要

### (1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

#### ■ 教育研究上の基本組織

【女子栄養大学】	大学院 栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程
			博士後期課程
		保健学専攻	修士課程
			博士後期課程
	栄養学部	実践栄養学科	
		保健栄養学科	栄養科学専攻
			保健養護専攻
栄養学二部 (イブニングコース)	保健栄養学科		
【女子栄養大学 短期大学部】		食物栄養学科	
【香川調理製菓 専門学校】		調理専門課程	調理マイスター科
			調理師科
			製菓科

### (2) 教員組織

#### ■ 教員数（本務者男女別、職別人数）（平成24年5月1日現在 単位：人）

##### 【女子栄養大学（学長を含む）】

学 長	男	0	1	87
	女	1		
副学長	男	2	2	
	女	0		
教 授	男	20	47	
	女	27		
准教授	男	3	16	
	女	13		
講 師	男	2	11	
	女	9		
助 教	男	0	10	
	女	10		

【女子栄養大学短期大学部】

学 長	男	0	0	19
	女	0		
副学長	男	1	1	
	女	0		
教 授	男	2	10	
	女	8		
准教授	男	2	6	
	女	4		
講 師	男	0	2	
	女	2		
助 教	男	0	0	
	女	0		

【香川調理製菓専門学校】

教員 13人

(3) 学生に関する情報

■ 受け入れ方針

◇ アドミッションポリシー

【女子栄養大学】

大学院	栄養学研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養学研究科は、食と健康を統合する研究者および高度専門職業人の養成を目指し、人々の健康の増進と幸福な社会の実現に寄与することを目的とする。</li> <li>○ 求める学生像は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの課題意識、問題関心が明確である人</li> <li>・大学院の研究等を進めるのに、必要な学力を有している人</li> </ul> </li> </ul>
	(栄養学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養・食に関連した科学的根拠の探求、およびそれを活用した実践への熱意を有する人</li> </ul>
	(保健学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域保健、学校保健、バイオ・メディカルの基礎的研究に深い関心を持ち、ヘルスプロモーションに意欲を有する人</li> </ul>
栄養学部	実践栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食・健康に好奇心や探求心を持ち、食事の調製・提供のための知識や技術を身につけ、傷病者の栄養指導など、管理栄養士として栄養学の知識を実践したい人</li> <li>○ 豊かな人間性と感受性を持ち、生命の大切さを深く理解し、人々の健康と社会の福祉のために役立ちたいという情熱に燃えている人</li> </ul>
	保健栄養学科 (栄養科学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動（スポーツ）に詳しい栄養士として、健康支援の場で活躍したい人</li> <li>○ 栄養学に基礎をもつ家庭科教諭として、教育の場で活躍したい人</li> <li>○ 栄養に詳しい臨床検査技師として、保健・医療の場で活躍したい人</li> <li>○ 食品・生命科学に興味を持ち、企業活動の場で活躍したい人</li> </ul>

	保健栄養学科 (保健養護専攻)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 養護教諭にどうしてもなりたいという強い意志を持つ人</li> <li>○ 子ども達を愛し、養護教諭という職を愛する人</li> <li>○</li> </ul>
	食文化栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養、調理、料理など、食べることや作ることに興味を持ち、食文化の世界に魅力を感じている人</li> <li>○ 「食生活と食文化のスペシャリスト」としてフードビジネスや食のメディアの世界で実力を持って活躍したい人</li> </ul>
栄養学部二部	保健栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養学の学びを通じて、自身の可能性を広げたい人</li> <li>○ 食と健康についての専門的知識を身につけ、社会貢献や仕事に役立てたい人</li> <li>○ 食と健康についての正しい知識を身につけ、食べることを通じて自分や周囲を健康にしたい人</li> <li>○ 栄養学の知識をリカレント(再学習)し仕事に役立てたい人</li> <li>○ 食と健康に強い家庭科教諭を目指したい人</li> </ul>

**【女子栄養大学短期大学部】**

食物栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食・健康に好奇心や興味をもち、食事の調製・提供のための知識や技術を身につけ、栄養学の知識を実践する人</li> <li>○ 食産業や食文化及び健康分野等で「食生活のスペシャリスト」として活躍したい人</li> <li>○ 学業で得た知識を更に深く学び探究する意欲のある人</li> </ul>
--------	---

◇本年度の入試広報活動

平成 24 年度の募集活動においても、本学の強みである資格取得率、就職率、教育力を前面に出した広報展開をし、さらに本学卒業生の積極的な活用、ネット媒体の活用などを行い、学生募集に全力投入いたしました。

- 平成 24 年度入試の大幅な志願者増 (3,121 人・前年比 126.9%) の影響から、平成 25 年度入試は志願者数の減少を危惧いたしました。結果として志願者数を前年に引き続き伸ばすことができ、大学と短大を合わせて過去 9 年間で最高となる 3,293 人 (前年比 105.5%) を集めることができました。
- 栄養学部二部は、平成 11 年度入試 (入学者 21 名) 以来、定員割れが続いていましたが、14 年ぶりに定員に達することができました。
- 平成 25 年度入試に向けて実施したオープンキャンパスは、来場者数が 4 年連続増加、8,550 人 (前年比 119%) の来場者を得ました。

■ 入学者の数、収容定員、在学する学生の数 (平成24年5月1日現在 単位：人)

①女子栄養大学 大学院

研究科	専攻	課程	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程	1	10	11	20	11	28
			2	10	-		17	
		博士後期課程	1	3	2	9	2	9
			2	3	-		2	
			3	3	-		5	
		保健学専攻	修士課程	1	10	4	20	4
	2			10	-	4		
	博士後期課程		1	3	1	9	1	3
		2	3	-	0			
3		3	-	2				

②女子栄養大学

学部	学科	学年	入学定員 (3年次編入)	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学部	実践栄養学科	1	200	221	840	222	903
		2	200	-		209	
		3	200(20)	(15)		235	
		4	200(20)	-		237	
	保健栄養学科	1	150	165	600	167	690
		2	150	-		169	
		3	150	-		175	
		4	150	-		179	
	食文化栄養学科	1	67	90	308	90	365
		2	67	-		83	
		3	67(20)	(16)		98	
		4	67(20)	-		94	
栄養学部 二部	保健栄養学科	1	20	16	120	16	88
		2	20	-		12	
		3	20(20)	(27)		33	
		4	20(20)	-		27	

③女子栄養大学短期大学部

学科	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
食物栄養学科	1	160	193	320	193	369
	2	160	-		176	

■ 卒業者の数、進学者、就職者の数

女子栄養大学（平成 24 年 5 月 1 日現在 単位：人）

学部	学科	卒業者	進学者	就職者
栄養学部	実践栄養学科	230	7	207
	保健栄養学科	177	6	149
	食文化栄養学科	102	4	83
栄養学部二部	保健栄養学科	30	2	15

女子栄養大学短期大学部(平成 24 年 5 月 1 日現在 単位：人)

学科	卒業者	進学者	就職者
食物栄養学科	167	17	135

(4) 教育課程に関する情報

■カリキュラム

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

【栄養学部】

専門的能力を高めるために、学科ごとに専門分野の選択科目を配置し、実験・実習科目を重視しています。分野ごとに基礎から応用へ、また専門分野間で関連付けながら学習ができるよう、教育課程を編成しています。

【栄養学部二部】

栄養、食品、調理、保健、食情報など 12 分野にわたる教育課程を編成すると共に、教員免許状（家庭（中学・高等学校））、フードスペシャリスト受験資格を取得できるよう、教育課程を編成しています。また、栄養学の知識を再学習（リカレント）を希望する科目等履修生の受け入れを行っています。

【短期大学部】

栄養学の知識・理論の学習を通して自ら正しい食生活を実践すると共に、社会において食を介して人の健康を守ることができる優れた栄養士の養成を図り、食事・栄養改善を通じて健康増進をなすための技術、食事・料理の調製・提供に必要な実際的な技術を身につけることを目的としてカリキュラムを編成します。

- 1 広範で多様な基礎的知識の獲得のため基礎・教養科目、自由選択科目を設置します。
- 2 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、栄養士必修科目、専門科目および教職必修科目を設置します。
- 3 学生が幅広く関心のある科目を履修できることを目的として、専門科目、基礎・教養科目に一般コース・キャリアコースの教育目的に合わせたコース別科目を設置します。
- 4 栄養学を社会に還元し、健康を維持するための基礎技術・能力を育成するため多様な実験・実習科目を設置します。

■ 授業科目一覧

大学院、各学部・学科・専攻の授業科目及び授業内容は、シラバスに掲載されているとおり、教育課程の編成方針に即して設けられています。詳細は以下のとおりです。

## ●栄養学部・栄養学部二部

### 【実践栄養学科】

基礎教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（理化学・生物学、社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康）、専門科目群（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理、総合演習、臨地実習）、5系科目群（臨床栄養、地域保健・福祉栄養、スポーツ栄養、フードマネージメント、食品開発）、栄養教諭分野科目群、総合科目群、教職専門分野科目群。

### 【保健栄養学科 栄養科学専攻】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（栄養科学基礎）、専門科目群（ダイエットライフサイエンス、スポーツライフサイエンス、メディカルライフサイエンス、ヒューマンライフサイエンス）、総合科目群。

### 【保健栄養学科 保健養護専攻】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（生化学・生物学、医学基礎、人体の解剖・機能のしくみ、疾病の原因・薬の作用、感染症の原因と防衛のしくみ）、専門科目群（栄養・食生活、保健衛生・情報、養護・保健・看護、臨地実習、教職・教科、他に8領域）、総合科目群。

### 【食文化栄養学科】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（食と文化、食と生活・環境、栄養・健康、食品・衛生）、専門科目群（調理・料理表現、フードビジネス・経営、食情報、表現）、総合科目群。

### 【栄養学部二部 保健栄養学科】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（理学・情報）、専門科目群（栄養、食品・調理、衛生、保健、教職教科、総合）、高度専門科目群（栄養、食品・調理）、教職科目群（教職）。

## ●大学院栄養学研究科

### 【栄養学専攻修士課程】

基礎栄養科学領域（母子栄養学、高齢期栄養学、運動栄養学、基礎栄養学、栄養生理学、臨床栄養学、臨床栄養代謝学）、実践栄養科学領域（実践栄養学、臨床栄養管理学、医療栄養学、給食経営学、栄養管理学、食教育学、栄養教育学、栄養疫学）、生体科学領域（加齢生化学、分子栄養学、生化学、生理学、生物有機化学）、食文化科学領域（食文化人類学、食心理学、国際栄養学、国際開発論、食環境学、食情報学、生活教育学）、食物科学領域（食品学、食品機能学、食品衛生学、フードシステム論、調理学）、共通領域（栄養学研究法、実践栄養学専門演習、実践栄養学実習）。

### 【栄養学専攻博士後期課程】

栄養学（固有）領域（栄養生理学、実践栄養学、給食経営・栄養管理学、地域栄養学、食情報科学）、生体科学領域（臨床代謝学、医化学、分子栄養学、生化学、生理学）、食物科学領域（食品機能学、食品成分反応論、調理機能学）。

### 【保健学専攻修士課程】

健康科学領域（ヘルス・プロモーション論、成人・高齢者保健学、保健栄養学、環境保健学、地域保健学、産業保健学、国際保健学、保健社会学、保健情報科学、スポーツ医学、実践運動学）、臨床病態生化学領域（臨床生理学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学、病理細胞学、臨床血液学）、実践学校保健学領域（学校保健学、学校メンタルヘルス論、性教育学、発育健康学、小児保健学、養護教諭論、学校保健看護学、救急看護論）、共通領域（保健学研究法）。

### 【保健学専攻博士後期課程】

地域保健学領域（地域保健計画学、臨床疫学、保健情報科学、環境保健学）、臨床病態生化学領域（臨床生理学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学）、実践学校保健学領域（発育健康学、性教育学、実践学校保健学）。



(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

■ 学修の成果に係る評価

◇ 履修方法および卒業必要単位一覧

【女子栄養大学 大学院 栄養学研究科 (数字は単位数)】

専攻・課程等	修業年限	修得可能な学位及び資格等	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数	
				必修	選択
栄養学専攻 修士課程	2年	修士 (栄養学)	30 以上	20	10 以上
		修士 (栄養学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (家庭)	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
保健学専攻 修士課程	2年	修士 (保健学)	30 以上	20	10 以上
		修士 (保健学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (保健)	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
		修士 (保健学) 養護教諭専修免 許状	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
		修士 (保健学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (保健)及び養護 教諭専修免許状	44 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 24 以上
栄養学専攻 博士後期課 程	3年	博士 (栄養学)	必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		
保健学専攻 博士後期課 程	3年	博士 (保健学)	所定の授業科目(3 単位)を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		

【女子栄養大学 栄養学部】  
〔実践栄養学科〕平成24年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	47 単位	
専門科目	必修科目	35 単位	
			合計 124 単位以上

管理栄養士国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	47 単位 6 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	35 単位 23 単位	
			合計 135 単位以上

管理栄養士国家試験受験資格および教員免許状（栄養）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目2単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し6単位履修 *教員資格必修科目2単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6単位以上 6単位以上 6単位以上 8単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 管理栄養士受験資格必修科目 教員資格必修科目	47 単位 6 単位 2 単位	
専門科目	必修科目 管理栄養士受験資格必修科目 教員資格必修科目	35 単位 23 単位 4 単位	
教職科目	*20単位（注意：栄養教諭教育実習指導・栄養教諭教育実習・教職実践演習（栄養教諭）の計4単位は卒業必須単位に含めることができない）		
			合計 163 単位以上

[保健栄養学科 栄養科学専攻] 平成 24 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
総合分野	必修科目	2 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	42 単位 3 単位	
総合分野	必修科目	2 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許および臨床検査技師国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目	42 単位 3 単位	
専門科目	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	82 単位	
総合分野	必修科目	2 単位	
			合計 180 単位以上

注) この他に「臨床検査学英文原書講読」を履修することが望ましい。

栄養士免許、スポーツリーダーおよびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42 単 位 3 単位 1 単位	
専門科目	スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (スポーツリーダー資格必修科目9単位を含む)	24 単 位	
総合分野	必修科目 スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	2 単位 2 単位	
			合計 125 単位以上

栄養士免許、フードスペシャリスト受験資格および食品微生物検査技士受験資格<sup>注)</sup>を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 食品安全管理コース必修科目 食品安全管理コース指定科目	42 単 位 3 単位 2 単位 3 単位	
専門科目	フードスペシャリスト受験資格必修科目 食品微生物検査技士受験資格必修科目 食品安全管理コース必修科目 食品安全管理コース指定科目	13 単 位 1 単位 7 単位 4 単位	
総合分野	必修科目	2 単位	
			合計 128 単位以上

注) 食品微生物検査技士受験資格については、「履修の手引」239頁を参照。

栄養士免許および教員免許状（家庭）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上  計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目	42 単位 3 単位 2 単位
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注)</sup>	52 単位 3 単位
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注)</sup>	2 単位 2 単位
		合計 159 単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）およびスポーツリーダーの資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上  計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42 単位 3 単位 2 単位 1 単位
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注)</sup> スポーツリーダー資格必修科目	52 単位 3 単位 9 単位
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目	2 単位 2 単位
		合計 169 単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）、スポーツリーダーおよびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上	
			計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 健康スポーツ栄養コース必修科目	42 単位 3 単位 2 単位 1 単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注)</sup> スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (スポーツリーダー資格必修科目 9 単位を含む) 教員・スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 (生涯スポーツ演習 I・II)	50 単位 3 単位 22 単位 2 単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注)</sup> スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	2 単位 2 単位 2 単位	
			合計 184 単位以上

注) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）および食品微生物検査技士受験資格<sup>注1)</sup>を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 食品安全管理コース必修科目	42 単位 3 単位 2 単位 2 単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注2)</sup> 食品安全管理コース必修科目 食品微生物検査技士受験資格科目	52 単位 3 単位 9 単位 1 単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目 <sup>注2)</sup>	2 単位 2 単位	
			合計 171 単位以上

注 1) 食品微生物検査技士受験資格については、「履修の手引」239 頁を参照のこと。

注 2) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

栄養士免許、教員免許状（家庭）、フードスペシャリスト受験資格、食品微生物検査技士受験資格  
注1) を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目	27 単位	
専門共通科目	必修科目 栄養士資格必修科目 教員資格必修科目 食品安全管理コース必修科目	42 単位 3 単位 2 単位 2 単位	
専門科目	教員資格必修科目 家庭科教職コース指定科目注2) 食品安全管理コース必修科目 フードスペシャリスト受験資格必修科目 食品微生物検査技士受験資格科目	52 単位 3 単位 7 単位 13 単位 1 単位	
総合分野	必修科目 家庭科教職コース指定科目注2)	2 単位 2 単位	
			合計 182 単位以上

注 1) 食品微生物検査技士受験資格については、「履修の手引」 239 頁を参照のこと。

注 2) 教員申請科目ではないが、家庭科教職コース指定科目である。

〔保健栄養学科 保健養護専攻〕平成 24 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上	計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	15 単位	
専門科目	必修科目	39 単位	
			合計 124 単位以上



教員免許状（養護・保健および看護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 3 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 37 単位	
教職科目	44 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 164 単位以上

教員免許状（養護および保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 3 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 33 単位	
教職科目	40 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 156 単位以上

教員免許状（養護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 2 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 25 単位	
教職科目	24 単位（注意：養護実習指導・養護実習・教職実践演習（養護教諭）の計 7 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 131 単位以上

教員免許状（保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上  6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 1 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 15 単位	
教職科目	33 単位（注意：教育実習指導・教育実習 I・II・教職実践演習（中・高）の計 7 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 131 単位以上

〔食文化栄養学科〕平成24年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目	31単位	
			合計 124単位以上

※3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修2科目4単位を修得しなければならない。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	31単位 18単位	
			合計 124単位以上

※3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修2科目4単位を修得しなければならない。

フードコーディネーター（3級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目 フードコーディネーター(3級)資格必修科目	31単位 8単位	
			合計 124単位以上

※3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修2科目4単位を修得しなければならない。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格およびフードコーディネーター（3級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上	計 24単位以上
専門基礎科目	必修科目	32単位	
専門科目	必修科目 フードスペシャリスト資格認定試験 受験資格必修科目 フードコーディネーター(3級)資格必修科目	31単位 18単位 8単位	
			合計 124単位以上

※3コースのうちいずれか1コースに帰属し、コース必修2科目4単位を修得しなければならない。

### 女子栄養大学 栄養学部二部

〔保健栄養学科〕平成24年度入学生

#### 卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野	2単位以上 2単位以上 2単位以上 4単位以上	計 16単位以上
専門科目	必修科目 実験実習演習科目（*印科目より）	22単位 5単位	
教職科目	<注意：教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習（中・高）（計7単位）は卒業必要単位に含まれない>		
			合計 124単位以上

教員免許状（家庭）を取得して卒業するための要件

	卒業要件	教員免許状（家庭）取得要件				
		教科の科目		教職の科目	免許法第66条の6に定める科目	介護等体験
		必修	選択	必修	必修	必修
基礎・教養科目	人文科学分野 2単位以上 社会科学分野 2単位以上 自然科学分野 2単位以上 外国語分野 4単位以上 計 16単位以上				日本国憲法(2単位)を含める 英語コミュニケーションI(2単位)を含める	
専門科目	必修科目 22単位	18単位			内 情報処理学(2単位)	
	実験実習演習科目(※印科目より) 5単位					
	選択科目	14単位			保健体育講義(1単位)・生涯スポーツ演習(1単位)を含める	介護等体験指導(2単位)を含める
教職科目	〈注意〉			33単位		
		20単位		33単位		
		65単位				
						合計 131 単位以上

〈注意：教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習（中・高）（計7単位）は卒業必要単位に含まれない〉

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格を取得して卒業するための要件

	卒業要件		フードスペシャリスト資格認定試験受験資格取得要件
基礎・教養科目	人文科学分野 2単位以上 社会科学分野 2単位以上 自然科学分野 2単位以上 外国語分野 4単位以上 計 16単位以上		
専門科目	必修科目 22単位		内 12単位
	実験実習演習科目(※印科目より) 5単位		内 2単位
	選択科目		11単位
教職科目			
			計 25単位
			合計 124 単位以上

女子栄養大学短期大学部

〔食物栄養学科〕

	資格を取得 しないで卒業 するための 要件	栄養士の資 格を取得し て卒業する ための要件	フードスペ シャリスト受験 の資格を取得して 卒業する要件	栄養士とフード スペシャリスト受験 の資格を取得 して卒業する 要件	栄養士と栄養 教諭の資 格を取得し て卒業する 要件	栄養士・フードスペ シャリスト受験・栄養教諭 の資格を取得して 卒業する要件
栄養士 必修科目	14 単位以上 ※卒業必修 科目、卒業 選択必修単 位を必ず履 修すること	50 単位	20 単位以上 ※食品学総論、食 品学各論（食品加 工学を含む）、食品 学実験（食品加工 実習を含む）、食品 衛生学、栄養学総 論、調理学、基礎 調理学実習〈1〉・ 〈2〉調理科学実験 （官能評価・統計 処理を含む）及び 卒業必修の選択必 修単位を必ず履修 すること	50 単位	50 単位	50 単位
専門科目	48 単位以上 ※栄養士必 修科目の選 択科目、専 門科目、基 礎・教養科 目より 45 単位以上を 履修すること ※専門科目 の実践栄養 学演習及び 基礎・教養 科目の就業 支援演習 Ⅰ・Ⅱを必 ず履修する こと	11 単位以上 ※実践栄養 学演習を必 ず履修する こと	42 単位以上 ※栄養士必修科目 の選択科目、専門 科目、基礎・教養 科目より 34 単位以 上を履修すること ※実践栄養学演 習、食料経済（フード マーケティング論を含 む）、食品科学（食 品物性・機能論を含 む）、食品化学実 験、就業支援演習 Ⅰ・Ⅱを必ず履修 すること	11 単位以上 ※実践栄養学 演習、食料経 済（フードマーケ ティング論を含 む）、食品科学 （食品物性・機 能論を含む）、 食品化学実験 の 4 科目を必 ず履修するこ と	11 単位以上 ※実践栄養 学演習、情報 処理・生物統 計演習、健康 づくり運動 処方、健康管 理スポーツ 実践の 4 科 目を必ず履 修すること	11 単位以上 ※実践栄養学演 習、食料経済（フード マーケティング論を含 む）、食品科学（食 品物性・機能論を含 む）、食品化学実 験、情報処理・生 物統計演習、健康 づくり運動処方、 健康管理スポーツ 実践の 7 科目を必 ず履修すること
基礎・ 教養科目	6 単位以上 ※就業支援 演習Ⅰ・Ⅱを 必ず履修す ること	6 単位以上 ※就業支援 演習Ⅰ・Ⅱを 必ず履修す ること	6 単位以上 ※就業支援演 習Ⅰ・Ⅱを必 ず履修するこ と	6 単位以上 ※就業支援演 習Ⅰ・Ⅱを必 ず履修するこ と	6 単位以上 ※就業支援 演習Ⅰ・Ⅱ、 日本国憲法、 外国語コミュニ ケーションの 4 科 目を必ず履 修すること	6 単位以上 ※就業支援演習 Ⅰ・Ⅱ、日本国憲 法、外国語コミュニ ケーションの 4 科目を必ず 履修すること
教職必修 科目	—	—	—	—	15 単位	15 単位
自由選択 科目	—	—	4 単位以上 ※フードスペ シャリスト 論、フードユ ーティネット 論の 2 科目を必ず 履修すること	4 単位以上 ※フードスペ シャリスト 論、フードユ ーティネット 論の 2 科目を必ず履 修すること	—	4 単位以上 ※フードスペ シャリスト 論、フードユ ーティネット 論の 2 科目を必ず履 修すること
合計	62 単位以上	67 単位以上	66 単位以上	71 単位以上	82 単位以上	86 単位以上

(6) 学習環境に関する情報

■校地、校舎 (キャンパスの概要)

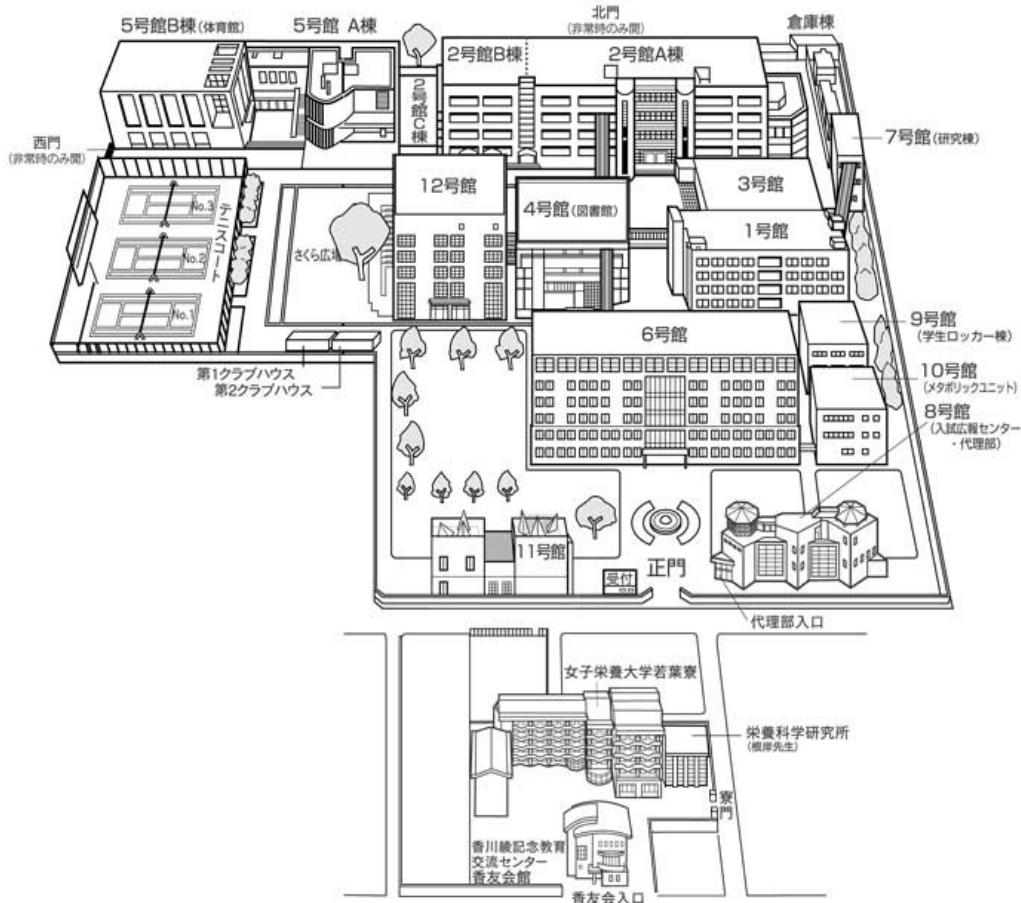
◇ キャンパス所在地

女子栄養大学	大学院	坂戸キャンパス
	栄養学部	埼玉県坂戸市千代田三丁目 9 番 21 号
	栄養学部二部	
女子栄養大学短期大学部		駒込キャンパス
香川調理製菓専門学校		東京都豊島区駒込三丁目 24 番 3 号

◇ キャンパスの概要

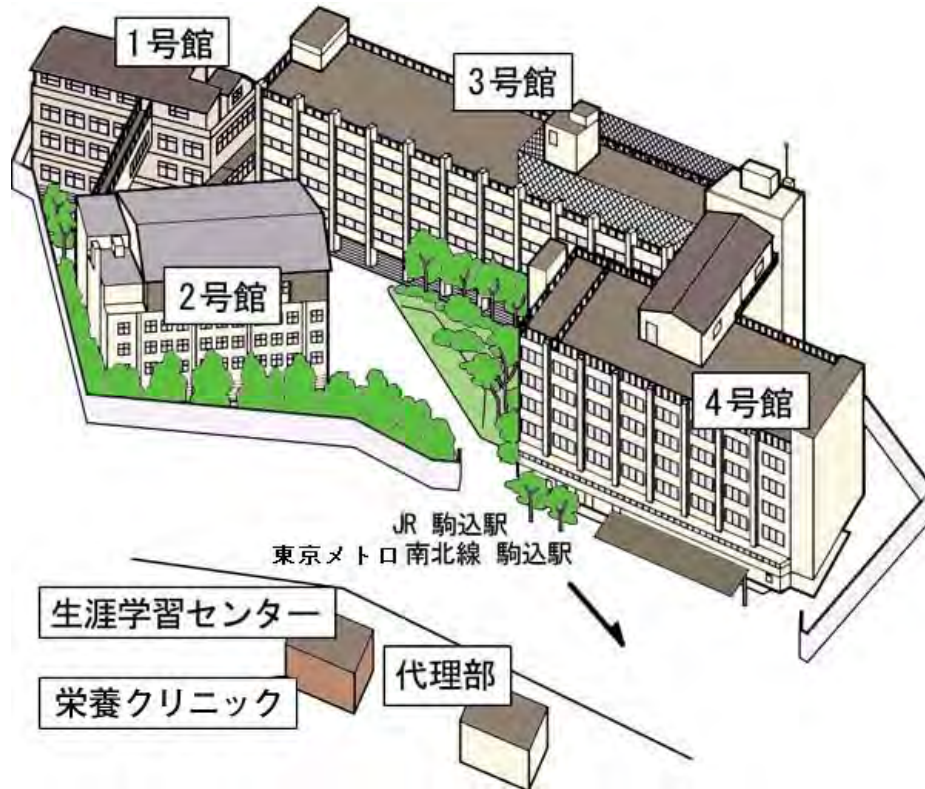
【坂戸キャンパス】

近隣には、「小江戸」と呼ばれ数多くの文化財が残る川越市や、自然に囲まれた「国営武蔵丘陵森林公園」「埼玉県こども動物自然公園」等があります。キャンパス内には「さくら広場」があり、春には見事な桜を咲かせています。



【駒込キャンパス】

都心にほど近い駒込キャンパス。この地こそ本学が発展する基礎を築いた地であり、ひいては日本の栄養学を切り拓く拠点となりました。決して広いとはいえないかも知れませんが、充実した実験・実習設備と高度な研究内容は、今も昔も高いレベルを誇っています。



◇ 校地

(単位：㎡)

学校	基準面積	現有面積	差異	屋外運動場
女子栄養大学	17,480	58,369	40,889	10,543
女子栄養大学短期大学部	3,200	8,119	4,919	4,142
香川調理製菓専門学校	—	750	—	—
計	20,680	67,238	45,808	14,685

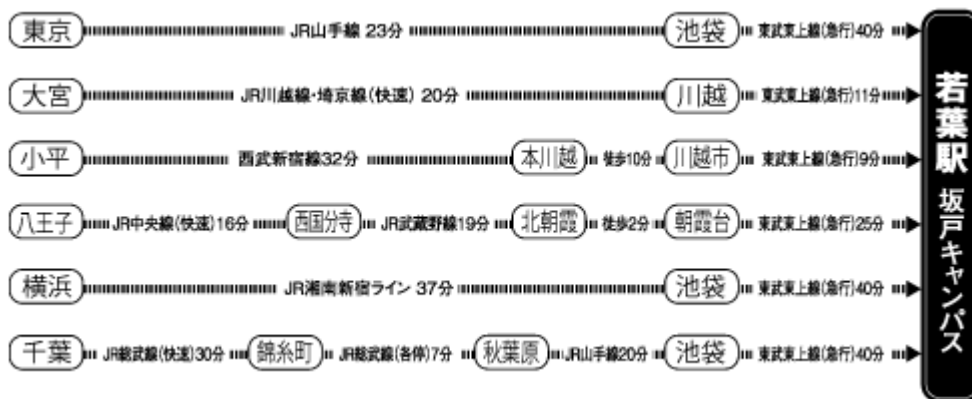
◇ 校舎

学校	基準面積	現有面積	差異	体育施設
女子栄養大学	16,367	42,352	25,985	1,298
女子栄養大学短期大学部	3,100	9,390	6,290	478
香川調理製菓専門学校	980	2,236	1,256	—
計	63,757	53,978	33,531	1,776

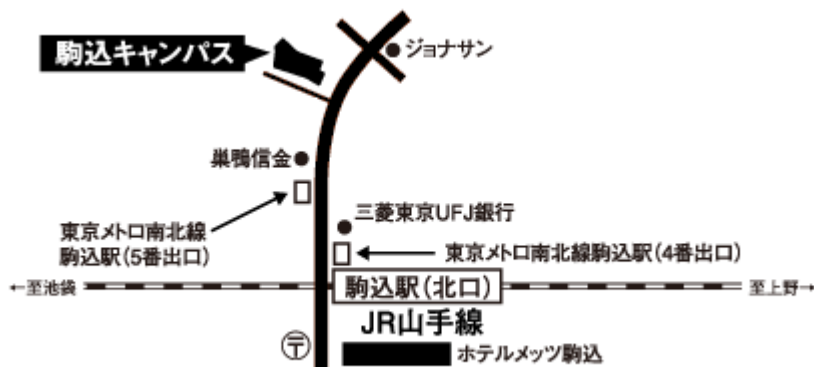


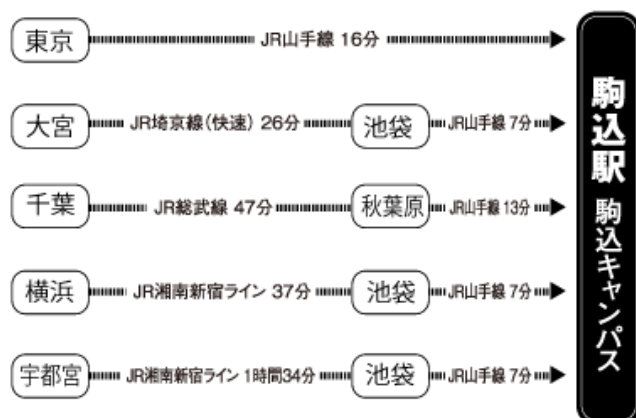
◇ 主な交通手段

【坂戸キャンパス】



【駒込キャンパス】





■ 課外活動の状況および施設等

①女子栄養大学

○活動

若葉祭実行委員会	弓道部	硬式庭球部
バレーボール部	バスケットボール部	ワンダーフォーゲル部
バドミントン部	マラソン部	競技ダンス部
スキー部	ハルモニアオーケストラ	二部舞踏研究部※
ギタークラブ	美術部	軽音楽部
食育ボランティア～ニコニコ会～	たんぽぽ	合唱団あらぐさ
華道部	栄大国際学生交流会 (ICE)	ユースホステルクラブ
点心部	English Communication Club	茶道部
EIDAI COOKING STUDIO (ECOS)	絆プラス1 (ワン) ※	

※学部二部 (イブニングコース)

○施設

坂戸キャンパス教室、学内設置テニスコート（夜間照明設備あり）、藤金運動場テニスコート、若葉グラウンド、体育館、小体育室、11号館（クラブ活動の充実をはかるための施設、防音装置を施した音楽練習室3室、集会室7室、楽器庫やトランクルームがあります。）など。現クラブハウス（第1クラブハウスには14室と倉庫2室、第2クラブハウスには10室と倉庫1室がある。）は、学園創立80周年記念事業として平成25年度に新たに建築の予定です。二部は駒込キャンパス、クラブ室（1号館4階）。

○支援

課外活動補助費は1団体60,565円（平成23年度・栄養学部）です。補助費は、活動日数、スポーツ系クラブでは大会出場登録日、音楽関係クラブでは演奏会場費などを参考に算出しています。年度末にはクラブ活動費報告書および領収書を学生担当に提出します。

各クラブ代表によるクラブ委員会を組織。新入生対象クラブオリエンテーションの運営や施設の使用について協議します。

学園祭（若葉祭）は、毎年5月末または6月初めの土曜日、日曜日に開催。学生の実行委員会が企画・運営し、教職員がサポートしています。

②女子栄養大学短期大学部

○活動

駒込祭実行委員会	学生会	FAT BYE 部
調理研究部	茶道部	合唱団あらぐさ
卓球部	ハルモニアオーケストラ	山ごはんクラブ
あおぞらクラブ	まちかどラブソディ	こども食育くらぶ
香川軽音楽部	スイーツサークル Amitie	球技サークル
ごはんの根っこ	東京さんぽ	

○施設

体育館、学生執行部室、駒込祭実行委員会室・クラブ室（1号館4階）

○支援

課外活動補助費は、所属団体構成人数により算出し助成します。また、学生の自治会である学生会により、学園祭、クラブ活動の経済的支援を行なっています。

学園祭（駒込祭）の企画・運営は駒込祭実行委員会が行っており、相談役として学生部長びクラス担任、ゼミ指導教員及び教務学生担当の事務職員がサポートしています。

（7）学生納付金に関する情報

■授業料、入学金他大学が徴収する費用

女子栄養大学 栄養学部 栄養学部二部

（単位：円）

【1年生】	栄養学部				栄養学部二部
	実践栄養学科	保健栄養学科		食文化栄養学科	保健栄養学科
		栄養科学専攻	保健養護専攻		
【学納金】					
入学金（入学時）	375,000	375,000	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	490,000	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	136,000	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,236,500	1,236,500	1,205,000	675,500
【諸経費】					
調理学実習費（前期分）	17,000	17,000	17,250	19,050	14,050
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
保護者会会費（入学時）	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
小計	57,000	57,000	57,250	59,050	54,050
合計	1,293,500	1,293,500	1,293,750	1,294,050	729,550
【学用品費】					
教科書含む（前期分）	112,000	100,000	98,000	93,000	33,000

【編入学生】	栄養学部		栄養学部二部
	実践栄養学科	食文化栄養学科	保健栄養学科
<b>【学納金】</b>			
入学金（入学時）	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,205,000	675,500
<b>【諸経費】</b>			
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000
合計	1,266,500	1,235,000	705,500

### 学生寮費（若葉寮）

	前期分（4月～9月）	後期（10月～3月）
入寮費（入寮時のみ）	100,000	—
寮費	300,000	300,000
管理費	30,000	30,000
計	430,000	330,000

### 女子栄養大学 大学院

（単位：円）

	修士課程		博士後期課程	
入学金	200,000		200,000	
授業料（年額）	528,000	（2回分納）	528,000	（2回分納）
実験実習教育研究費（年額）	521,000	（2回分納）	521,000	（2回分納）
施設費（年額）	23,000	（2回分納）	23,000	（2回分納）

### 女子栄養大学短期大学部

【1年生】	食物栄養学科
<b>【学納金】</b>	
入学金（入学時）	360,000
授業料（前期分）	377,000
実験実習教育研究費（前期分）	133,000
施設費（前期分）	179,500
小計	1,049,500
<b>【諸経費】</b>	
調理学実習費（前期分）	17,750
給食管理実習給食代	5,000
家庭料理技能検定3級	12,000
学生会会費	2,000
同窓会入会金（入学時）	30,000
保護者会会費（入学時）	5,000
小計	71,750
合計	1,121,250
<b>【学用品費】</b>	
教科書含む（前期分）	113,000

## (8) 学生支援と奨学金に関する情報

### ■ 大学が行なう支援（修学進路選択、心身の健康等）

#### ○学生相談

小さな悩みにも、カウンセラーが適切なアドバイスをしています。学生生活を送る中では、さまざまな悩みや問題も生じてきます。悩みは、人に話すことで問題を客観的にとらえられたり、それが自分ひとりのものではないと気づいたりします。学生相談室では、勉強やアルバイト、プライベートなことなど、精神科医や臨床心理士が直接面談し、相談に応じています。相談日は坂戸キャンパスは平均週4回、駒込キャンパスは平均月6回。相談内容等は秘密を厳守しています。

#### ○保健センター

保健センターでは、主に定期健康診断、健康相談、応急処置などを行っています。心や体がつらい時は、サポートをしています。

#### 【本年度の報告】

##### 1. 保健管理のシステム化

(1) 保健管理のシステム化：システム化の第1段階として、2006年度以降の栄養学部学生の在学中の定期健康診断の成績（従来フロッピーディスクに保存）が情報・ネットワーク担当者らの作業によりファイルサーバー上に保存され、今後の健康管理の基礎資料として活用されることとなりました。

(2) 短期大学部学生・専門学校生徒、および教職員の健診データベースの構築は現在検討中です。

(3) 労働安全衛生管理（放射線取扱者、有害化学物質取扱者らの健康管理を含む）および特定保健指導の各対象者への保健指導のシステム化についても対応の一元化を目指して検討中です。

##### 2. 感染症対策

(1) 麻疹対策については、入学前の全学生・生徒に（第4期）予防接種を勧奨、入学時の抗体検査に基づく予防接種を勧奨しています。その結果、全員の抗体保有率は95%以上となり、麻疹の集団発生は抑止されています。

(2) 管理栄養士・栄養士の学外実習前のB型肝炎および小児感染症などの予防接種の勧奨指導をシステム化することにより、学生への個別指導を迅速・適正に行えるようになりました。

(3) 日常、学生に接する教職員の感染症予防対策は、麻疹に関しては確立しました。

##### 3. BLS教育の実施

AEDの使用など救命救急法について、坂戸、駒込両キャンパスで、地区消防署指導の実技講習会の開催、生理学実習でのトレーニングセットの貸し出し、講義への協力で実施しました。さらに、今後は十分な授業時間で健康教育をするように検討しています。

#### ○定期健康診断

年一回、4月に実施しています。受診できない場合は、各自が医療機関で受診（自費）し、結果を速やかに保健センターに提出します。

#### ○健康相談

病院へ行くほどではないが、体のことで心配なことや聞いてみたいことなどがある場合、以下のとおり医師や看護師が相談にのっています。

\*また、キャンパス周辺の医療機関案内（受診時間や地図など）を用意しています。

○医師による健康相談

相談内容	駒込	坂戸
内科医（センター長相談）	火曜日	水曜日
学医相談		月 1 回
精神科医相談	月 1 回	
婦人科医相談	月 1 回	月 1 回

※原則として予約制

※日時は保健センター掲示板で連絡。

※必要に応じて、専門医を紹介します。

その他、悩みや心配事、疑問など随時、看護師が相談にのっています。

○応急処置

学内でのケガや急病時は、保健センターで応急処置を行なっています。

体調が悪いときは、ベッド休養もできます。

【駒込保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:15～21:30 土 9:15～12:35

場 所 2号館2階（階段上がってすぐ）

連 絡 Tel・Fax 03-3576-3221

【坂戸保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:00～18:30 土 9:00～12:20

○学生寮（女子栄養大学若葉寮）

坂戸キャンパスから徒歩1分、東武東上線若葉駅から徒歩2分、5階建ワンルームマンションタイプの学生寮を設置しています。

入寮時には、身の回りのものを準備するだけで安心・快適な暮らしがスタートできます。

入寮定員約100人。入寮対象者は昼間部女子学生に限ります。在寮期間は2年間。管理人常駐。門限23時。全洋室。1室1人ベッド・デスク・本棚・物入れ・ユニットバス・キッチン・冷蔵庫・洗濯機・シューズケース・トイレ・エアコン付個室のほかに共用の部屋として、ゼミ室、多目的室（和室）、談話室。食事昼食、夕食は学生食堂（大学構内）の利用可。所在地 埼玉県坂戸市千代田3-18-17（坂戸キャンパスから徒歩1分）

（交通案内）

東武東上線「若葉」駅東口より、徒歩2分

学生寮から駒込（短期大学部）キャンパスまでの通学時間約1時間

通学定期代（駒込キャンパスまで）1ヶ月／7,480円 3ヶ月／21,330円 6ヶ月／40,420円

○奨学金制度

くじけることのない「向学心」を応援しています。

経済的な事情のために、修学が困難な場合等、以下の奨学金制度があります。

◇北郁子奨学基金（大学1・2年生、短期大学部1年生）

本学卒業生、北 郁子氏の「経済的理由のために母校で学ぶことができないことが無いように、若い方々を支援し育成したい」との遺志を継いだ奨学金制度です。平成21年創設。学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

◇横巻のぶ記念奨学金（大学3年生以上・短期大学部2年生）

本学園創立50周年記念事業の一環として設立された、創立者香川綾の生母名を冠した奨学金制度です。家庭の事情により、修学の途中で学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

◇香友会わかば奨学金（大学4年生・短期大学部2年生）

各学科、専攻における教育の理念を基に、それぞれの専門性を活かした社会活動を志向して学業向上に意欲を持って取り組んでいる学生に対して、その目的を遂行するための費用を助成（授与）するものです。

◇日本学生支援機構

奨学金の種類と貸与月額（平成24年度）

種類	区分	貸与月額		
		自宅通学	自宅外通学	
奨学金 第一種	大学部	30,000円 54,000円	30,000円 64,000円	
	短期大学部	30,000円 53,000円	30,000円 60,000円	
	大学院	修士	50,000円 88,000円	
		博士	80,000円 122,000円	

奨学金 第二種	大学部・短期大学部	3万円・5万円・8万円・10万円・12万円
	大学院	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円

※“第一種奨学金”は無利子。“第二種奨学金”は有利子。

※貸与月額は上記から奨学生が選択。

※入学時特別増額貸与奨学金については、ホームページ等でご確認のこと。

ホームページ <http://www.jasso.go.jp/> Tel. 0570-03-7240（ナビダイヤル・全国共通）

◇その他の奨学金

地方自治体や各種団体なども奨学金制度を設けています。貸与額や条件はそれぞれに異なります。詳細は出身地の都道府県・市区町村の教育委員会・各団体に問い合わせてください。

・香川綾奨励賞

自らの可能性を高く大きく伸ばし、つねに自分自身を向上させようと努力し、大きな成果をあげている学生を表彰し、奨励することを目的に設立されました。

対象者は、学業成績が優秀で課外活動や学内行事、ボランティア活動にも積極的に参加している学生です。教職員推薦、香川綾奨励賞運営委員会による選考を経て、理事長が決定します。なお、受賞者には賞状・楯のほか、金一封が授与されます。

・修士課程特別奨学制度

大学院入学試験および学部成績が極めて優秀な者（学内者、学外者を問わない）、栄養学・保健学各専攻それぞれ入学時に2人以内（合計4人以内）に入学金および授業料の全額を

免除とします。

学納金は実験実習教育研究費・施設費のみとなります。

・修士課程長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限の2年で修了することが困難と認められる者に対し、修士課程を3年間で計画的に教育課程を履修し、修士の学位取得を可能にすることができる制度です。修士課程の2年分の学納金の総額を、3年間で納入します。

■ 大学院修学休業制度

現職教員が大学院に在学し、専修免許状を取得するために、教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成12年4月28日第52号）により、創設されたものです。平成13年4月1日から実施されています。国公立学校の教員（教諭、養護教諭、栄養教諭及び講師）で、一種免許状または特別免許状を持つ者が、任命権者の許可を受けて、大学院で1年を単位とし3年を越えない期間で、研修を行うために休業することができる制度です。

■ 就職支援

希望通りの職業まで万全のナビゲートをしています。

本学の就職状況のいちばんの特徴は、きわめて高い就職率を安定して保っていることです。公務員（教員や地方自治体の栄養士など）、病院・福祉関係施設など、資格免許を活かした専門職への就職は、景気や社会動向の影響を比較的受けにくいのがその理由です。また、食品企業を中心とした一般企業からの求人も多く、将来への選択肢がますます増えています。学生がこのメリットを最大限に活かせるよう、本学では万全の就職活動支援プログラムを用意し、個別に丁寧な支援を徹底しています。

○就職支援の体制

本学では、学生一人ひとりが希望通りの就職を実現できるよう、新たに組織した就職委員会と就職支援事務部署である就職担当を中心に学園全体が一体となった就職支援体制を整えています。関係教員だけでなく在学生と就職担当との意見・情報交換を通して基本的な支援方針を策定しています。その方針に基づき、就職担当はガイダンスの企画・実施、個人面談など、具体的な支援を担当しています。さらに、3年次に全員と面談を行う等学生一人ひとりの希望進路を把握して情報提供を行なうなどきめ細やかな個々への支援も行なっています。

○就職活動支援プログラム

就職担当では、学生の希望業種を問わず、適切なアドバイスができるよう就職活動支援プログラムを企画しています。その中心がガイダンスで、就職活動の仕組みや選考方法の理解と対策、求人情報収集の方法や就職情報サイトの利用方法など実際に就職活動を進めるために必要な内容構成で年に数回開催しています。これらのガイダンスと個人面談により、学生はいつでも「今、自分が何をすべきか」を知ることができる体制となっています。また、バラエティ豊かなテーマ別プログラムも開催しています。文部科学省大学教育・学生支援推進事業〔テーマ B〕学生支援推進プログラムの助成を受けたコミュニケーション力やプレゼン能力を高める講座、卒業生から直接話しを聞いたり相談できる就活フォーラム、就活準備のための就職対策講座（4～5回）やメイク・マナー講座、選考試験対策のためのSPI2およびエントリーシート対策講座や模擬面接会、学内での企業セミナーなどさまざまな方向から学生への就職支援を実施しています。

○卒業後のフォローアップ体制

本学には卒業生対象の求人も数多く寄せられます。管理栄養士や臨床検査技師として現場経験を有する者や、すぐに勤務できる家庭科教諭や養護教諭です。一方卒業生からの転職情報の請求や相談も少なくなく、これらの対応として大学HP卒業生のページに求人情報を公開しています。また、対面、電話、メールによる転職相談にも随時対応するなど卒業後も密度の



高いフォローを続けています。

○その他の取り組み

【インターンシップ制度】

栄養学の専門的知識だけでなく、広い視野、実践力、経験を身につけて学生が社会に飛び立てるよう、夏期休暇の約 2 週間を利用して、企業などに赴き、実際の仕事を体験。自分の適性を見極めながら、社会人としての心構えや企業が求める人材像などを学ぶことができます。

＜病院、保健センター、保育園などの福祉施設への就職志望者＞

資格取得のために関係省庁が求める以上の期間・内容を満たした学外実習を実施しています。社会人として必要なすべての資質の向上を目指したプログラムが組まれています。

＜企業の研究員、総合職への就職志望者＞

企業の採用担当者を招き話を聞く機会を設けています。また、プロの就職コーディネーターが講師となり就職活動のノウハウを教える勉強会を実施しています。

＜公務員志望者＞

外部から講師を招いて「公務員講座」を実施しています。

■ 住居の紹介

自宅外通学をする学生のために、通学の便を考えた近隣アパート等住居の紹介を行なっています。

■ 充実の IT 環境

全学生に e-mail アドレスを貸与しています。授業のレポートや先生への質問、また就職情報などにも活用しています。

また、学内情報掲示配信システム (i-Compass) を導入しており、休講や求人情報等も携帯電話やパソコン等で確認することができます。

【本年度の報告】

○インターネット接続回線の見直し

NTT 東日本と共に、技術的な問題の有無について検証を行いました。その後 NTT より新たな回線サービスの提供が開始され、インターネットとの接点である坂戸キャンパスもその提供エリアに含まれるため、平成 25 年度内に新たなサービスに移行する予定です。この新たな回線サービスは現行の回線と比較して速度が 2 倍、月額のコストは低減される見通しです。

○PC 仮想化 (デスクトップ仮想化) の検討

メーカーと共に技術的な検証、適用先の検討を行いました。デスクトップ仮想化の特性上、用途としては①基幹業務システムへの適用、②コンピュータ教室等の「同一環境を持つ複数の PC」への適用が適切である、との結論に至りました。次のステップとして、平成 25 年度に仮想デスクトップの環境を導入し、実際の使用環境に沿った形での検証を実施する予定です。

(9) 主な教学関係事業の概況

①栄養学部

○全国栄養士養成施設協会認定の「栄養士実力試験」の平成 24 年度結果は、栄養学部実践栄養学科は 36 名受験、A 認定 35 名 (97.2%)、B 認定 1 名 (2.8%) 保健栄養学科栄養科学専攻は 53 名受験、A 認定 47 名 (88.7%)、B 認定 6 名 (11.3%) でした。平均点は実践栄養学科 55.8 点、栄養科学専攻 43.4 点、全国平均 39.5 点を上回りました。また、本年度より総受験者のうち、成績優秀な者に副賞をそえて表彰されることになり、本年度被表彰者 23 名のうち、本学実践栄養学科 3 年生(全国 5 位)が、表彰されました。

○「フレッシュマンキャンプ」は、授業の一環として 1 年生全員参加で実施されます。実践栄養

学科は4月18日(水)本学坂戸キャンパス、食文化栄養学科は4月26日(木)～28日(土)山梨県の国際自然大学校、保健栄養学科栄養科学専攻は9月11日(火)・12日(水)国立女性教育会館、保健養護専攻は9月13日(木)本学坂戸キャンパスにおいて学科専攻別を実施しました。

- 平成25年度栄養学部入学生を対象に、以下の「フォローアッププログラム」を実施しました。
  - ・早期入試区分(推薦入試・AO入試)の入学予定者を対象に、平成24年12月15日(土)「入学準備セミナー」(入学前学習課題のすすめ方・在学生と語ろう)を開催し、実践栄養学科156名・保健栄養学科栄養科学専攻75名・保健栄養学科保健養護専攻42名・食文化栄養学科75名、計348名(欠席22名)が参加しました。
  - また、同日保護者向けセミナーを実施したところ、166名の参加がありました。
  - ・上記入学予定者の希望者を対象に「入学準備セミナー(化学)」を平成24年12月16日(日)実施したところ、234名が参加しました。
  - ・入学予定者を対象に、入学前課題(化学:Lesson1・2、生物:一步一步学ぶ生命科学)及び読書レポート課題を配布。化学の入学前課題Lesson1・2の答案を採点し、本人に結果を送付。生物については、Webシステムで実施しました。
  - ・入学予定者を対象に、入学前課題「化学」の得点により基礎コースの「分野Ⅰ」と発展コース「分野Ⅱ」の2クラスを設け、平成25年3月29日(金)に「化学短期集中セミナー」を実施したところ、354名が参加しました。
  - ・入学後、4月のオリエンテーション期間中に化学および生物の「理解度テスト」を実施し、化学のテスト成績下位対象者に「フォローアップセミナー」を実施、生物のテスト成績下位対象者の補習はWebで実施します。

## ② 大学院

- 職業等の事情により標準修業年限の2年で修了することが困難と認められる者に対して、修士課程を3年間で計画的に教育課程を履修して修士の学位取得を可能にすることができる修士課程長期履修学生制度を開始し、平成24年度には長期履修学生が5人在籍していました。
- 極めて優秀な者に対し入学金、授業料を免除する修士課程特別奨学生制度を開始し、平成24年10月23日・24日に実施した入学試験の結果、栄養学専攻に2人が合格しました。
- 大学院栄養学専攻の授業科目(実践栄養学専門演習)を大学院の公開講座として実施し、外部からの受講者(16人)を受け入れました。

## 【大学就職担当】

- 非常に厳しい就職環境が続くなか、学生への個別支援を強化した結果、全体で前年度の就職率をわずかに上回りました。学科・専攻別の就職率は以下のとおりです。( )内は23年度。

実践栄養学科	94.5%	(95.4%)
保健栄養学科 栄養科学専攻	95.1%	(92.9%)
保健栄養学科 保健養護専攻	96.8%	(100.0%)
食文化栄養学科	94.0%	(92.1%)
合 計	94.9%	(94.8%)

- 学内での企業説明会および選考会を積極的に開催し、学生の企業研究や応募の機会を増やしました。
- 臨床検査技師を目指す学生対象の学内企業説明会の参加企業数を増やし、これまでの1日から2日間の開催としました。
- 教員の臨時採用情報を得るため都道府県や市町村の教育委員会への情報提供依頼を強化しました。これによって得られた情報で11人の学生が臨時教員として採用が決定しました。

## 【大学学生担当】

### ○学生の経済支援について

学納金未納の学生については本人からの聞き取り、必要に応じて家族との対話(電話等)により状況を確認し、日本学生支援機構の奨学金や本学奨学金の情報を提供しました。年度末期の未納者に対しては銀行等による学費ローンの情報提供なども行いました。

### ○課外活動の充実

今年度はクラブ 23 団体(体育系 9 団体、文化系 14 団体)に課外活動補助費として総額 1,493,000 円を補助しました。補助金は活動状況に応じた配分および 1 団体 10 万円を限度として連盟への登録費用・施設利用費の一部補助などを勘案して算出。このほか茶道部：畳替え費用の一部、ギター部：楽器購入、バドミントン部：屋内用トレーニングタイマーの購入に総額約 20 万円の特別補助を行いました。

若葉祭は 6 月 2・3 日に実施し、12,152 名の来場者がありました。産学連携を行っている外部からの出店によるのか、近隣の店舗などから参加の問合せが実行委員会に寄せられるなど規模が大きくなる傾向がうかがえます。コンサートでは整理券配布時に転んでケガをした人があり、今後は来場者の安全確保についてのサポートも課題になると考えます。

### ○メンタルケア

カウンセリング室は臨床心理士 2 名と精神科医師 2 名が担当し、月平均 12 日開室しました。来室者は延べ 120 人、うち新規利用者は 30 名。カウンセリング研修会には 1 名が参加しました。

### ○学生寮(若葉寮)

年数の経過により寮内備品の交換が増加しています。今年度はベッドマットレス、IH クッキングヒーター、ユニットバスシャワーヘッドの交換をほぼ全室について行いました。設備関係では集中自動検針機の交換、エレベーターワイヤーロープ交換工事、防火シャッターの修理、寮門扉の改修および塗装工事などを実施しました。(施設・設備担当主導)  
また今年度より、大学予算で入寮生全員が個人賠償責任保険に加入しました。

## ③短期大学部

○教育充実に係わる支援として、入学直後に行っていた「何でも相談コーナー」に加え、平成 24 年度より『履修相談』として期間を設け、一人ひとりが単位の取りこぼしが無いように親切丁寧な指導を行いました。また、平成 25 年度カリキュラムの検討を行い以下のように変更することとしました。①1 年次開講科目のうち指定した 6 科目を単位取得した一般コースの学生は 2 年次にキャリアアップ科目を履修可能としました。②自由選択の「保健体育校外実技」を夏期と冬期に分けた単位化しました。③平成 24 年度で訪問介護員研修が終了することに伴い授業科目として「福祉・介護実習」を設け食物栄養学特論 I～V を見直し、英語の e-learning、介護食士等の履修により単位認定を行い食物栄養学特論 X まで設置しました。

○学生生活支援としては、家庭環境や精神的な面での支援を必要としている学生が、担任や授業担当教員にいつでも相談できるような環境に加え、カウンセラー相談日を月 5 回に増やし学生がカウンセリング相談室を気軽に利用できるような環境を充実させるなど、環境改善を継続的に行いました。今後も継続して事務局と教科担当教員およびクラス担任と連絡を密に行い、学業生活が円滑に続けられるよう支援していく必要が今まで以上に増えています。

## ④栄養学部二部

○二部再生に向けた取り組みとして、以下のような活動を行いました。

(1)e-learning システム(CoursePower) については、各授業担当教員に少しずつ浸透し、受講する正規学生及び科目等履修生と教員との間で具体的に活用が進んでいます。さらに、学部二部

では、後期から履修者名簿は各教員がデータでダウンロードいただきシステムの活用が進んでいます。

- (2) 広報部と協力して実施している入学相談会では参加人数も増加し、入学につながる状況が見えます。その結果、平成 24 年度においては新 1 年生が 16 人、平成 25 年度においては 23 人と 1 学年の定員が充足いたしました。また、科目等履修生は継続 48 人、新規 11 人となり計 59 人を数えました。
- (3) 就職状況において、平成 24 年度卒業学生および科目等履修生で教職課程を修了し、教職を希望している者については、公立・私立の常勤または非常勤として、希望通り全員(12 人)が就職できました。

#### ⑤ 短期大学部および栄養学部二部

- 就職対策委員会の組織を軸として教職員間で情報交換を密に行い、学生個人が抱える問題を解決することにより、進路の明解化を図りました。具体的には、短期大学部学生に対しては、以下のような諸活動を行い成果が見られました。
  - ・ 就職対策の一環として実施している就職対策模擬試験に関して、受験後の解説講座を強化した結果、理解度の向上がみられました。
  - ・ 学内企業セミナーを実施したことにより、就職に対する意識の向上がみられました。
  - ・ 精神的な支援を必要とする学生に対しては教職員の連携を密に行い、保護者も含めて慎重に対応することができました。
- クラブの活動状況により、体育系クラブ 4 団体、文科系クラブ 14 団体の計 18 団体に補助を行いました。
- 10 月 29 日・30 日開催の第 42 回駒込祭は、3,285 人の入場者がありました。産学官連携を行っている福井県や、農林水産省関東農政局東京地域センター、地域企業の参加により、一層の連携が深まりました。
- 平成 24 年度自己点検・評価を実施し、報告書にまとめ学園ホームページに掲載しました。

#### ⑥ 専門学校

- Polytechnic West (西オーストラリア州パース) への短期留学は、7 月 7 日から 8 月 5 日の間で実施しました。テクニクコースで製菓科に在籍する 7 名が参加。当初の計画人数よりも少なかったが、予定通りに実施することができました。生徒は、調理製菓実習、英語研修、学校内のレストランでの実習などを行い、調理実習では日本ではなかなか扱えない食材を使っている調理を経験できるなど、留学教育の目的を達することができました。しかし、参加者を増やすためには、何らかの経済的支援も考える必要があるとの課題も明らかになりました。
- 調理マイスター科、調理師科、製菓科に於ける(社)全国調理師養成施設協会「食育インストラクター認定登録資格」、(社)全国調理職業訓練協会「介護食士 3 級認定資格」「キューティーンズ&パンケット(C&B)コーディネーター 3 級認定資格」「ラッピングクリエイター 3 級認定資格」「カフェクリエイター 3 級認定資格」等を付与する教育は、滞りなく実施することができました。
- 学園の附帯施設である「レストラン松柏軒」「菓子工房プランタン」を活用した「臨地実習」を年間 30 時間行っているが、今年度も特段の問題も無く実施することができました。ただし、施設との関係で同時に実習できる人数が限られているので、入学者の増加に伴いどのように組み立てていくのが課題ともなっています。
- 事業計画においては、「全国調理職業訓練協会の介護食士 2 級、3 級資格の夜間認定講習を引き続き開講する」としましたが、日程及び講師手配の関係から、平成 24 年度は 3 級講座だけを開講しました。今後継続して介護食士講座を開講していくためには、より多くの学部、短期大学部の協力が必要かもしれません。
- 調理マイスター科のデュアル実習は予定通り実施できたが、平成 24 年度入学生では募集定員を充足することができたので、平成 25 年度に向けて実習先の確保と実習時期の再検討が必要となりました。平成 25 年度の実習方法の見直しと実習時期の見直しを行い、実習先確保を積

極的に行いました。

#### ⑦国家試験合格状況

- 第 27 回管理栄養士国家試験（3 月 17 日実施）は、栄養学部実践栄養学科（新卒）受験者 222 人、合格者 215 人で合格率 96.8%でした。全国の受験者数は 20,455 人、合格者数は 7,885 人で合格率は 38.5%でした。
- 第 59 回臨床検査技師国家試験（2 月 20 日実施）は、栄養学部保健栄養学科（新卒）受験者 48 人、合格者 47 人で合格率は 97.9%でした。全国では、受験者 4,097 人、合格者 3,162 人で合格率 77.2%でした。

#### ⑧補助金

- 教育研究財源の確保としての補助金の確保について、私立大学等経常費補助金（国庫補助）の一般補助及び特別補助などの外部資金の確保に努力しましたが、国の補助金制度の大幅な変更で、特別補助の大幅削減があったため、例年を大きく下回る補助金となりました。

### 3. 当該年度のその他の事業の概要

- 平成 25 年 9 月 14 日に 80 周年式典・祝賀会を計画していますが、平成 24 年度はそのプレイベントとして 9 件の記念集会、講演会等を開催しました。なお平成 25 年度にも引き続き同様のイベントを開催する予定です。
- 「創立 80 周年記念募金」期間の 2 年目である平成 24 年度の記念募金額は、個人寄付 24,186 千円、法人寄付 15,579 千円、合計金額 39,766 千円でした。「綾栄会募金（教育・研究促進事業）」は個人寄付 5,705 千円、法人寄付 1,900 千円、合計金額 7,605 千円でした。平成 24 年度の合せた募金総額は 47,371 千円となり、前年度より 10,237 千円の増加（個人寄付 2,807 千円増、法人寄付 7,429 千円増）となりました。
- 平成 11 年発足の「香川綾記念講師派遣事業」は主として高校生対象の出張講義への派遣としてスタートしましたが、現在はその依頼先・内容も多様化し、高校への派遣が全体の 2/3、その他が 1/3 強の比率になっています。中でも各都市の教育委員会や学校関連団体、地方自治体の保健・健康・医療・福祉関係部署からの派遣要請が目立ち、その結果、24 年度の総派遣件数は 384 件、受講者の総数は約 2.5 万人を数えました。
- 新聞、雑誌、メディアの対応も年々増加しております。また、2012 年度、女子栄養大学及び女子栄養大学栄養クリニックを冠した書籍は 24 冊を数えます。各種イベントの後援、共催や参加により、女子栄養大学の取り組みを広く知らせております。
- 学園ホームページについては、ニュースの更新はもとより、各付帯事業、出版部との協力、研究所のリニューアル（CMS 使用）他、80 周年プレイベントの告知等も行っております。
- 学園誌「香窓」を平成 23 年夏号(61 号)より、香友会の協力を得て保護者の他、新たに全卒業生(28,000 件余)へ送付を開始しました(全送付数 31,290 件)。また創立 80 周年前年となる平成 24 年夏号(63 号)よりページ数増、64 号(冬号)からフルカラーとしました(制作部数 35,000 部)。
- 募集の後方支援として社会人対象の夜間説明会を実施し、学部二部・短大キャリアコース・専門学校の募集力の支援をしました(7 月～3 月に 8 回実施)。その他首都圏の高校 850 校の訪問を行いました。また、さらに認知を深めるため、スポーツ栄養セミナーを 4 会場（埼玉、松本、宇都宮、静岡）で実施しました。
- 国立科学博物館「大学パートナーシップ」（平成 20 年度入会）に継続入会し、学生の学習支援の一助としています。
- 校歌 CD を制作し、入学生 1,000 人に配付(6 年目)しました。
- 平成 23 年度に大学・短期大学部「保護者会」を設立。平成 24 年度は学部 3 学年までが会員となり、学事行事（入学式・学位記授与式・入学準備セミナー）ならびにオープンキャンパスへの支援活動のほか“学園祭”への参加、“研修親睦会”や“栄養と料理セミナー（年 3 回開催）”

の開催など積極的に活動しました。また、当年度から地方での「保護者の集い（6/24 新潟、9/17 栃木）」を開催し、香友会支部との交流により「オール香川」による学園支援体制の基礎づくりの端緒をつくりました。

- 本学園を卒業し、「料理教室」を主宰・運営されている方々に対し、その社会的活動を奨励・支援することを目的に「料理教室」の認定制度が発足。当年度中に 22 件の認定校が誕生しました。
- 文部科学大臣認定の「平成 24 年度教員免許状更新講習」を 8 月 6 日（月）～10 日（金）の日程で実施し、実人数 313 名が受講しました。
- 文部科学大臣認定の「平成 24 年度免許状認定講習（養護教諭・専修免許）」を一期：8 月 8 日（水）～11 日（土）、二期：8 月 13 日（月）～16 日（木）の日程で実施し、一期 18 名、二期 22 名が受講しました。
- 代理部では、学生サービスの一つとして青山商事株式会社（『洋服の青山』）と提携割引販売の契約いたしました。
- 図書館では：
  - ・電子ジャーナル・オンラインデータベースの提供、洋古書、研究図書、専門図書の充実により学術情報の整備を図りました。
  - ・電子ジャーナル「ScienceDirect」のオンライン講習会を 4 回、文献管理ソフト「EndNote」の Web セミナーを 2 回学内に案内し、計 12 名の教職員・大学院生の参加がありました。
  - ・学位論文公開のため、執筆者の許諾を取得しました。
  - ・教育・研究支援として、①授業用参考図書の設置 ②読書教育の一環として学生による書店選定や施設見学ツアーの実施等による図書館利用推進 ③科目『読書』（大学）に係る図書の利用状況の把握ならびに教員との連携 ④本学の特色ある専門授業や講義を公開する OCW(Open Course Ware)の更新ならびに追加 ⑤所蔵資料の企画展示により、学生に図書に対する興味を促し図書館資料の利用促進に努めました。
  - ・創立 80 周年記念事業・図書館（短大部・専門学校）改修整備にあたり、利用者の要望の反映ならびに学習の場としての機能充実を図るよう努めました。

#### 4. 特長ある取り組みの概要

##### （1）社会貢献・連携活動の概要

○官学連携では

###### ①荒川区

2006 年度より取り組みを始めた「あらかわ満点メニュー」。2012 年度は、71 店舗が参加しており、確実にその取り組みは認知され、参加店舗からも積極的なメニュー提案が出てくるなど、実績をあげていました。

###### ②豊島区

2007 年、同区と区内 6 大学との連携協力を結び、以降、教育機能の向上並びに豊かな地域社会の創造をめざし、区民向けの各種講座等開講しました。本学においても 2012 年は、4 講座を開講、好評を得ています。

③秋田県と 2008 年に協定を締結。秋田県の食材を使用した調理実習「食コーディネート論実習（11/30・12/4）」や、県教育庁保健体育課依頼により、県内の高校生アスリート（雄物川高校・秋田北高校他）の栄養面をサポート、体組成測定や「食で創るスポーツ選手育成事業講演会」への講師派遣で協力しました。

④福井県と 2010 年に協定を締結。福井県食材を使用した「福井ランチ」をカフェテリアで提供（7 月と 11 月の計 2 週間）。県主催の「第 6 回全国高校生食育王選手権大会」の審査員長を学長が務める。同決勝大会進出チームの献立をカフェテリアで初めて提供する。県食材を使用した商品開発では、食文化栄養学科の学生によるケーキサレ「福井県バー」が商品化され、アンテナショップや福井県内で販売されます。その他、伝統野菜（板垣だいこん・杉箸アカカンパ）

の栽培を大学農園で実施など。

- ⑤埼玉県と 2011 年協定を締結。地方産業教育審議会委員として香川明夫校長が協力。県の HP に生涯学習センター主催「こども料理教室」が取材・掲載されました。
- ⑥坂戸市・市内 3 大学と 2006 年協定を締結。健康づくり応援店へのメニュー開発に協力。栽培された葉酸を多く含むルーコラを、カフェテリアで提供しました。
- ⑦川島町と 2012 年協定を締結。イチジクの加工についての検討、調理実習の講師派遣、川島農工商祭への参加などで協力しました。
- ⑦越生町と 2012 年協定を締結。町民を対象とした「健康食ランチツアー」(12/17)を実施し、参加者は、カフェテリアでのランチと講話を受講しました。

○産学連携では、

①イトーヨーカ堂

2009 年の協定を基に、栄養バランス型・カロリー特化型 2 種の弁当を毎月 2 点開発・販売しました。

②イオン

2012 年、包括協力に関する協定を結んで以来、「健康」「食」「栄養」の 3 つの基本項目に関し、「四群点数法」に基づいたバランスの良い商品開発やメニュー提案など、様々な取り組みを推進。10 種のサラダ他、弁当といった商品を開発・販売しています。

③川越総合卸売市場株式会社

2012 年、連携協力に関する協定を締結。同市場内の「食育ショップ」(新規開設)において、「食育」を通じ地域社会の人々の健全な食生活に貢献することを目的とした活動を実施。毎月第 2 土曜日に同市場内「食育ショップ」にて、試食・レシピ配布等実施しています。

④㈱DNP と世界文化社の社員食堂で本学カフェテリアメニューを提供しました。

2012 年、上記 2 社に対し、学生食堂のメニュー(レシピ)を提供。両社の社員食堂においては、社員の食・健康への食のあり方の啓蒙の一環として、実施されています。

○高大連携では、

①高校教員との勉強会、本学関係分野科目担当教諭(家庭・養護・栄養教諭等)とのセミナー実施により、本学への意識づけを積極的に実施しました。

②埼玉県高校教員対象「実践的職業教育推進プロジェクト」研修講座(8/17〔講師〕山下俊一教授・浅尾貴子助教)への開講に協力しました。

③埼玉県教育委員会主催「埼玉県産業教育フェア」にブース出展、同「アイデア弁当コンテスト」の審査員として協力、学長賞を提供しました。

④連携校は、新たに 1 校(私立高木学園女子高等学校)と協定を締結(平成 25 年 3 月現在 31 校)。連携校とはテーブルマナーや講師派遣による出張講義などを実施しています。

○大学公開講座として、6 月 3 日(日)に若葉祭公開講座(受講者 280 名)、10 月 27 日(土)、11 月 3 日(土)・10 日(土)に「現代人と食生活」と題する秋の大学公開講座(申込者 440 名)を実施しました。また、彩の国大学コンソーシアム公開講座に参画し、9 月 29 日(土)実施の本学担当回では 71 名が受講しました。

○地域連携の一環として、彩の国いきがい大学の「若い世代との交流」授業を 11 月 21 日(水)に受け入れ、いきがい大学生 127 名と本学学生 22 名が参加しました。

## (2) 生涯学習

○社会通信教育の受講申込者数は 1,213 人(平成 23 年度 1,308 人)、修了者数 718 人、優秀修了者表彰式で 6 人が文部科学大臣賞を受賞しました。

○「チャレンジ! 家庭料理検定・基礎編」講座の受講申込者数 77 人、修了者数 29 人でした。

- DVDを主教材とした「管理栄養士国家試験合格支援講座」の受講申込者数は106人、修了者数29人でした。
- 「食生活指導士」資格を設けて4年が経過しましたが、資格取得対象者は通信教育修了生、女子栄養大学(食文化栄養学科、保健養護専攻、栄養学部二部)・女子栄養大学短期大学部在学・卒業生で取得条件をクリアした人です。資格取得者数は、「食生活指導士2級」が320人(認定者合計1,445人)、「食生活指導士1級」が269人(認定者合計860人)でした。
- 「食生活指導士」資格取得者対象に「スキルアップ講座」を2回開講し、参加者は192人でした。
- 社会通信教育協会認定資格生涯学習インストラクター申請者は1級6人(取得者合計182人)、2級60人(取得者合計1,857人)でした。
- 公開講座等受講者数は「夏期スクーリング」190人、「月例スクーリング」496人、「料理講座(ベーシック)」170人、「エキスパートスクエア2012」175人、「料検合格対策講座」3・4級98人、1・2級189人、「料検直前対策講座」22人でした。
- 管理栄養士オープン模試受験者数は、第1回目は1,058人(内訳:通信941人、会場117人)で、第2回目は1,177(内訳:通信978人、会場199人)でした。
- 女子栄養大学生涯学習講師認定者は13人(認定者合計315人)でした。
- 料理教室参加者の延べ人数は738人、こども料理教室参加者の延べ人数は501人でした。
- 家庭料理技能検定の志願者は3,551人、うち本学学生1,068人(平成23年度は3,098人、うち本学学生1,011人)、成績優秀者表彰式で4人3団体が文部科学大臣奨励賞を受賞しました。
- テキスト「料理の基本」「日常食の料理」「よい食事の計画」「調理理論」「衛生法規」「病人食」「中国料理」の再販、「管理栄養士合格支援講座」DVD16枚作成。  
「家庭料理技能検定過去問題集2013」を作成しました。

### (3) 国際交流の概要

- 国際交流推進委員会企画学生海外研修として次の5つのプログラムを実施しました。
  - ・オーストラリア英語研修(夏)実施期間:H24.8.18-9.9(23日間)参加者:12人(大学12人)
  - ・オーストラリア栄養学研修(夏)実施期間:H24.8.18-9.2(16日間)参加者:19人(大学19人)
  - ・オーストラリア栄養学研修(春)実施期間:H25.3.9-3.24(16日間)参加者:14人(短大部14人)
  - ・ヨーロッパ料理研修(春)実施期間:H25.3.10-17(8日間)参加者:34人(大学24人、専門学校10人)
  - ・ヨーロッパ洋菓子研修(春)実施期間:①H25.3.7-14(8日間)参加者:45人(大学19人、専門学校26人) 実施期間②H25.3.10-17(8日間)参加者:45人(大学45人)
- 食文化栄養学科夏期集中授業・国際食活動フィールドワーク実習(ベトナム研修旅行)の実施補佐 実施期間:H24.8.27-9.3(8日間)参加者:13人(食文化3年生13人)
- 学術交流補助事業(国際会議参加)への申請は次の3件がありました。
  - ・H24.9.3-8 井元りえ教授、国際栄養学会議(シドニー)参加
  - ・H24.7.14-21 仙波圭子教授、国際家政学会(メルボルン)参加
  - ・H24.7.17-26 香川雅春専任講師、The International Convention on Science, Education and Medicine in Sport(スコットランド)参加
- カーティン大学内アカデミック・オフィスへの出張は次の2件がありました。
  - ・H24.4.17-28 長田早苗専任講師
  - ・H24.9.8-21 井元りえ教授
- 国際交流セミナー・報告会は次の3件がありました。
  - ・H24.9.21 オーストラリア・カーティン大学研究員 Dr Le Jian 先生、大学院特別セミナー開催「お茶とリコピンによる前立腺がん予防」
  - ・H24.11.15 長田早苗専任講師「アカデミック・オフィス出張報告」
  - ・H24.12.17 井元りえ教授、仙波圭子教授、香川雅春専任講師、長田早苗専任講師による国際学会参加・出張報告



- ソウル国立大学校生活科学大学との学生交流プログラムに基づき、H24.9.1-H25.8.31 にかけて 4 年生 1 名を受入れ。(指導教員：石田裕美教授)
- 海外からの訪問としては、次の 3 件がありました。
  - ・ H24.11.3-11 カーティン大学ジャパンツアー参加：学生 19 人、引率教職員 2 人
  - ・ H24.9.21 韓国・嘉泉(カチョン)大学校生活科学大学食品栄養学科学生及び教員の坂戸キャンパス見学：学生 21 人、引率教員 2 人
  - ・ H24.10.19 クイーンズランド工科大学国際交流センター職員 2 名来学

### III. 財務の概要

平成 24 年度決算の概要を、資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表に基づきそれぞれの主な内容につき千円単位（未満四捨五入）でご報告します。

#### 1 資金収支計算書

単位：千円(未満四捨五入)

##### 【収入の部】

- ① 学生生徒等納付金 4,723,625  
学納金については平成 15 年度をピークに下降しておりましたが、ここ数年は若干の定員を上回る状況が続いております。平成 24 年度については、短大・専門学校の定員を上回る状況によるものであります。
- ② 手数料収入 90,792  
入学検定料収入は逐年減収傾向にありましたが、平成 24 年度につきましても昨年へ引き続き増収になりました。コンビニエンスストアによる検定料払込による効果と、食育活動の幅広い成果によるものと判断いたします。
- ③ 寄付金収入 50,726  
24 年度の寄付金収入は 80 周年記念事業の 2 年目ということもあり、引き続き卒業生及び関係取引先等幅広く募金活動の結果、昨年を上回る成果となりました。
- ④ 補助金収入 310,566  
24 年度経常費補助金については昨年同様に制度改正による減額となりました。今後の補助金政策は一般補助金に特化する傾向が続くため、増収になるような環境にはないと判断しております。
- ⑤ 資産運用収入 192,774  
運用収入は利息が為替によって変動する仕組み債がおおいので、前半は最高水準の円高により苦戦をしいられました。後半になり豪ドルの上昇に伴い利息収入も増加いたしました。結果昨年以上回る収入となりました。  
また学園所有の不動産収入も安定的収入の要因となっております。
- ⑥ その他の収入 3,376,623  
(事業収入 \* 450,454)  
(雑収入 37,809)  
(借入金収入 300,000) 賞与資金短期借入  
(前受金収入 2,544,890)  
(その他の収入 43,470) 預り金・仮払金・仮受金等であります。
- \* 事業収入の内訳  
補助活動収入 145,648  
附属事業収入 238,645  
受託事業収入 45,149  
収益事業からの寄付 21,000  
(代理部 21,000 出版部は本年度なし)

##### 【支出の部】

- ① 人件費支出 3,270,337  
人件費については、予算を約 139 百万円程度増加いたしました。これは今年度定年退職者が多く、主な要因は退職金の支払いであります。  
引き続き人件費圧縮の改善努力に努めてまいります。

- ② 教育研究経費 1,093,527  
 全体経費の昨年並み配分を実施いたしました結果、予算を 80 百万円程度下回りました。毎年圧縮政策を継続してきた結果による成果が現れておりますが今後も継続して参ります。
- ③ 管理経費 696,590  
 全体経費の圧縮方針を継続したことにより昨年並みの実績でありました。
- ④ 施設・設備関係支出 840,806  
 平成 24 年度の施設設備費用の増加については、以下のとおりです。  
 土地支出 473 百万円 建物・建物附属支出 203 百万円 教育研究機器備品支出 112 百万円  
 土地につきましては、駒込校舎隣接土地で本郷通りに面した場所 584.91 m<sup>2</sup>を購入いたしました。  
 建物・建物附属の主なものは、駒込 4 号館の調理実習室の新設等であります。  
 機器備品につきましては、上記に付帯する備品及び通常の研究機器備品購入であります。
- ⑤ その他の主な支出 651,948  
 (借入金短期・長期返済支出 399,860)  
 (借入金利息支払い 16,193)  
 (その他支出 235,895) 預り金・仮払金・仮受金等であります。

## 2 消費収支計算書

単位：千円(未満四捨五入)

### 【収入の部】

- ① 学生生徒納金から雑収入までについては、資金収支により説明しており、内容が重複いたしますので省略いたします。  
 尚 寄付金収入に研究機器備品の現物寄付があり、寄付金収入が資金収支計算書より 323 千円増加しております。

### 【支出の部】

- ① 人件費 3,142,513  
 教員人件費 1,360,203  
 職員人件費 1,543,473  
 役員報酬 40,695  
 退職金 37,209  
 退職給与引当金繰入 160,933  
 退職給与引当金については、平成 23 年度をもって 100%積み上げを完了いたしました。平成 24 年度からは引当金が約 1 億円減少しております。
- ② 教育研究経費 1,572,807  
 このうち減価償却費は 479,878 千円です。その他は資金収支とほぼ同じです。  
 減価償却費はリース取引に係る当年度費用分と同額が減価償却費の増額となっております。
- ③ 管理経費 771,621  
 このうち減価償却費は 77,989 千円です。その他は資金収支と同様です。
- ④ 資産処分差額 53,067  
 今年度は通常の資産の取替更新時に発生する除却額と図書を除却によるものであります。

### 【消費収支差額の部】

当年度消費収入超過額は 19,751 千円、従って、前年度繰越消費収入超過額 163,534 千円と今年度収入超過額をプラスした 183,285 千円が翌年度繰越消費収入超過額になります。

### 【基本金組入額】

1号基本金 810,840 千円 2号基本金は 633,850 千円の取崩(主に土地取得費)と新たに

1億円の組入により実質△533,850千円となりました。

3号・4号については今年度の発生はありません。

合計 276,990千円の組入額となりました。

予算組入額は226,502千円でしたから 50,488千円の組入増加となりました。

その内容は、2号基本金の増額（平成25年3月理事会・評議員会承認）1億円によるものがあります。

### 3 貸借対照表

単位：千円(未満四捨五入)

前年度からの増減につき主な理由をご報告します。(△は減少)

#### 【資産の部】

##### <固定資産>

① 土地	473,850
建物	△ 157,499
構築物	△ 24,128
教育研究機器備品	△ 83,046
その他の機器備品	9,774

土地取得 駒込校舎隣接土地の購入による増加であります。

資産減少については、減価償却費によるものであります。

教育研究機器備品についてはリース取引の当年度返済分が加算されております。

③ 図書	5,539
------	-------

洋雑誌購入等による増加です。

##### <その他固定資産>

④ 退職給与引当特定資産	△ 147,823
建設引当特定資産	△ 533,850
減価償却引当特定資産	761,674

退職給与引当金は今年度退職者が多かった為本年度は減少しました。

建設引当資産については、土地取得費等による2号基本金減少額によるものであります。

減価償却特定資産の増加については、累積償却額の積み増し分であります。

##### <流動資産>

⑥ 現預金	△ 204,832
-------	-----------

手持ち流動性及び短期運用資産の減少によるものであります。

#### 【負債の部】

##### <固定負債>

① 長期借入金	△ 99,860 (翌年度短期借入へ振替済)
---------	------------------------

24年度新規借入はありません。

② 退職給与引当金	△ 147,823
-----------	-----------

今年度退職者が多く、取崩により減少したものであります。

平成23年度に退職引当金については、100%積み増しにより会計基準を満たしております。

##### <流動負債>

特に金額に変動するものではありません。

#### 【基本金】

① 第一号基本金	810,840
----------	---------

駒込校地隣接土地購入・駒込4号館調理実習室新設等による組入であります。

- ② 第二号基本金                   △ 533,850  
土地取得取崩 474 百万円 建物・建物附属取得取崩 160 百万円 今年度 80 周年事業  
経費分 1 億円組入 差額 534 百万円となります。
- ③ 第 3 号基本金                   なし
- ④ 第 4 号基本金                   なし

【消費差額の部】

当年度消費収入超過額は 19,751 千円、従って前年度繰越消費収入超過額 163,534 千円を  
プラスした 183,285 千円が翌年度繰越消費収入超過額になります。

#### IV. 財務比率

財務比率表

区 分			20年 度	21年 度	22年 度	23年 度	24年 度
分類	比 率	算 式					
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	消費収支差額	1.6	1.2	0.7	0.6	0.6
		総資金					
	基本金比率	基本金	94.4	93.8	94.5	97.8	97.8
		基本金要組入額					
	固定比率	固定資産	88.9	86.9	85.3	83.6	83.8
		自己資金					
	固定長期適合率	固定資産	77.6	76.0	74.7	74.1	74.6
		自己資金＋固定負債					
	流動比率	流動資産	319.3	320.0	335.8	428.7	316.1
		流動負債					
前受金保有率	現金預金	281.6	300.3	305.2	316.1	300.1	
	前受金						
総負債比率	総負債	20.6	21.2	20.9	21.1	20.4	
	総資産						
負債率	総負債－前受金	12	12.5	12.3	12.6	11.7	
	総資産						
基本金実質組入率	自己資金	92.5	95.2	95.4	95.9	98.6	
	基本金要組入額						
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	人件費	54.8	53.3	54.1	54.8	53.7
		帰属収入					
	教育研究経費比率	教育研究経費	28.6	27.3	26.4	27.0	26.9
		帰属収入					
	管理経費比率	管理経費	12.9	13	13.6	13.4	13.2
		帰属収入					
	消費支出比率	消費支出	97.3	94.8	95.1	96	94.9
		帰属収入					
	【經常経費依存率】	消費支出	122.6	121.4	118.8	120.4	117.7
		学生生徒等納付金					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	79.4	79.3	78.1	79.7	78.1	
	帰属収入						
寄付金比率	寄付金	0.7	2.2	0.5	0.7	0.5	
	帰属収入						
補助金比率	補助金	6.6	7.1	7.0	5.9	5.3	
	帰属収入						
基本金組入率	基本金組入額	5.7	7.3	6.8	4.9	4.8	
	帰属収入						